

ViewSonic®



PX706HD
DLP プロジェクター
ユーザーガイド

型番：VS17266

規格

VCCI (電波障害自主規制)

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は家庭で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ただし、下記のことが守られず使用した場合は、保証いたしかねますのでご注意ください。

■モニター内部およびケーブルの改造はしないこと。

■電源コードは付属のものを使用すること。

RoHS2 準拠の通知

本製品は、電気および電子機器 (RoHS2 指令) に含まれる危険物質の使用の制限に関して、欧州議会および欧州委員会の指令 2011/65/EU に準拠して設計・製造され、次に示すように欧州技術適合委員会 (TAC) が発行した最大濃度値を遵守しているものと見なされています。

物質	提示された最大濃度値	実際の濃度
鉛 (Pb)	0.1%	< 0.1%
水銀 (Hg)	0.1%	< 0.1%
カドミウム (Cd)	0.01%	< 0.01%
六価クロム (Cr ⁶⁺)	0.1%	< 0.1%
多臭素化ビフェニル (PBB)	0.1%	< 0.1%
ポリ臭素化ジフェニルエーテル (PBDE)	0.1%	< 0.1%

上に示した製品の成分の一部は、次に示すように RoHS2 指令の付録 III で免除されています。

免除された成分の例を、次に挙げます。

1. 以下を超えない、特殊目的用の冷極蛍光灯と外部電極蛍光灯の水銀(CCFLとEEFL) (ランプごと):
 - (1) 短距離(≤500 mm): 最大3.5 mg (ランプごと)。
 - (2) 中距離(>500 mm と ≤1,500 mm): 最大5 mg (ランプごと)。
 - (3) 長距離(>1,500 mm): 最大13 mg (ランプごと)。
2. 陰極線管のガラスの鉛。
3. 重量で0.2%を超えない蛍光灯のガラスの鉛。
4. 最大0.4%の鉛(重量)を含むアルミの合金化元素としての鉛。
5. 最大4%の鉛(重量)を含む銅合金。
6. 高い融点タイプのはんだの鉛(つまり、重量で85%以上の鉛を含む鉛ベースの合金)。
7. ピエゾエレクトロニクスデバイスなどのコンデンサ内、またはガラスまたはセラミックマトリクス複合体で、ガラスまたは誘電セラミック以外のセラミックに、鉛を含む電気および電子コンポーネント。

著作権情報

Copy right 2018 by ViewSonic Corporation. All right reserved.

Macintosh 及び Power Macintosh はアップル社の登録商標です。

Microsoft、Windows 及び Windows ロゴは米国及び他諸国のマイクロソフト社の登録商標です。

ViewSonic 及び 3 羽の鳥のロゴは ViewSonic 社の登録商標です。

VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。

DPMSおよびDDCはVESAの登録商標です。

PS/2、VGAおよびXGAは、International Business Machines Corporationの登録商標です。

免責事項：ViewSonic社は、記載事項に含まれる技術上または編集上の誤りや省略に関する責任は負いません。また、内容の実行や製品の使用から来る付随的、派生的な損害に関する責任は一切負いかねます。

継続的な製品改善のために、ViewSonic社は断りなく製品仕様を変更する権利を留保します。この文書の情報は無断で変更される場合があります。

ViewSonic社による事前の書面による承諾がない限り、いずれの目的でもこの文書をコピー、複製、転送することはできません。

目次

安全にお使いいただくために.....	2
--------------------	---

はじめに.....	4
-----------	---

プロジェクターの特長.....	4
-----------------	---

パッケージ内容.....	5
--------------	---

制御装置および機能.....	6
----------------	---

プロジェクターの配置.....	11
-----------------	----

設置場所の選択.....	11
--------------	----

投写サイズ.....	12
------------	----

接続.....	14
---------	----

コンピュータの接続.....	15
----------------	----

ビデオ機器の接続.....	15
---------------	----

プロジェクターからサウンドを再生する.....	16
-------------------------	----

操作.....	17
---------	----

プロジェクターの起動.....	17
-----------------	----

メニューの使用法.....	18
---------------	----

パスワード機能を使用する.....	19
-------------------	----

入力信号の切り替え.....	21
----------------	----

投写画像の調整.....	22
--------------	----

詳細の拡大と検索.....	23
---------------	----

縦横比の選択.....	23
-------------	----

画像の最適化.....	25
-------------	----

プレゼンテーションタイマーの設定.....	28
-----------------------	----

画像を隠す.....	29
------------	----

コントロールキーをロックする..	30
------------------	----

高地での操作.....	30
-------------	----

CEC 機能の使い方.....	30
-----------------	----

3D 機能の使用法.....	31
----------------	----

スタンバイモードでプロジェクターを使う.....	32
--------------------------	----

サウンドの調整.....	32
--------------	----

プロジェクターをシャットダウンする.....	33
------------------------	----

メニューの操作.....	34
--------------	----

メンテナンス.....	44
-------------	----

プロジェクターのお手入れ.....	44
-------------------	----

ランプ情報.....	45
------------	----

トラブルシューティング.....	51
------------------	----

仕様.....	52
---------	----

外形寸法.....	52
-----------	----

天井取り付け.....	52
-------------	----

IR 制御表.....	53
-------------	----

RS232 コマンド表.....	54
------------------	----

タイミングチャート.....	63
----------------	----

プロジェクターの仕様.....	67
-----------------	----

著作権情報.....	68
------------	----

安全にお使いいただくために

お使いのプロジェクターは、最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全にお使いいただくために

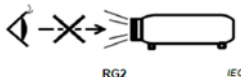
1. プロジェクターを操作する前に、この取扱説明書をお読みください。またいつでも参照できるように、手の届く場所に保管しておいてください。
2. 動作中は、プロジェクターのレンズを覗き込まないでください。強い光線なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。
3. 点検修理については、カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
4. プロジェクターのランプをオンにするときは、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。
5. 国によっては、電源電圧が不安定な場合もあります。プロジェクターは、電源が AC100 ~ 240V の電圧範囲のときに安全に作動するように設計されていますが、停電や $\pm 10V$ のサージが発生すると故障する可能性があります。電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置 (UPS) にプロジェクターを接続することを薦めます。
6. プロジェクターが作動しているときに投写レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。一時的にランプをオフするには、プロジェクターのリモコンの BLANK ボタンを押してください。
7. ランプは、動作中に非常に高温になります。ランプ部を取り外して交換する場合は、プロジェクターの電源を切ってから 45 分間ほど放置して、プロジェクターを常温に戻してください。
8. ランプは設定された寿命より長く使用しないでください。ごくまれですが、寿命より長く使用すると、ランプが破裂することがあります。
9. ランプや電子部品の交換は、必ずプロジェクターの電源プラグを抜いてから行ってください。
10. 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、破損する恐れがあります。
11. 本装置のキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。
修理はカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
12. 次の場所に装置を置かないでください。
 - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50 cm 以上空けて、プロジェクターの周辺の風通しをよくしてください。
 - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
 - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクターの寿命が短くなり、画像が暗くなります。
 - 火災報知器に近い場所。
 - 周辺温度が $40^{\circ}\text{C}/104^{\circ}\text{F}$ を超える場所。
 - 高度が 3000 メートル (10000 フィート) を超える場所。

13. 通気孔をふさがないでください。通気孔がふさがれると、プロジェクターの内部が過熱し、火災が発生することがあります。
 - 本製品をブランケットなどの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
 - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
 - プロジェクターの近くに可燃物を置かないでください。
14. 使用時は必ず装置を水平な平面上に置いてください。
 - 左右の傾きが10度、または前後の傾きが15度を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態でプロジェクターを使用すると、ランプが故障したり破損したりすることがあります。
15. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにするとプロジェクターが倒れ、けがをしたり、プロジェクターが破損したりする恐れがあります。
16. 装置の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。装置が物理的に破損するだけでなく、事故やけがの原因になります。
17. プロジェクターの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクター内部に液体がこぼれると故障の原因になります。プロジェクターが濡れてしまった場合は、コンセントからプラグを抜いて、カスタマーサポートセンターに補修を依頼してください。
18. 本製品を天井に取り付けて、画像を反転投写することができます。



天井に取り付ける場合は、専用の天井取り付けキットを使用し、しっかりと固定してください。

19. プロジェクターが作動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。
20. 搬送や取り付け時にセキュリティバーを使用しないでください。市販の盗難防止用ケーブルをお使いください。
21. 作動中のランプを見つめないでください。視覚障害を起こす可能性があります。



注意

- この装置は接地されていなければなりません。
- 本体を取り付ける際は、プラグが外してあるデバイスを固定配線に接続するか、または本体の近くにあり容易に手の届く場所にあるコンセントに接続してください。本体操作時にエラーが発生した場合は、コンセントから抜いたデバイスを操作して電源をオフにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

プロジェクター天井取り付けにおけるご注意

本プロジェクターを安心してお使いいただくために、ここに記載する注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクターを天井に取り付ける場合は、適合する天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

適合しない天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクターが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

セキュリティ ケーブルをお求めになり、プロジェクターの盗難防止用ロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお勧めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクターを補助的に支えることができます。

はじめに

プロジェクターの特長

このプロジェクターは高性能な光学エンジン投写技術とユーザーフレンドリーな設計を統合しており、高い信頼性と使いやすさを実現しています。

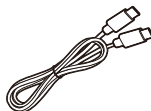
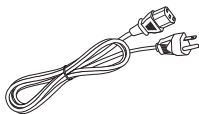
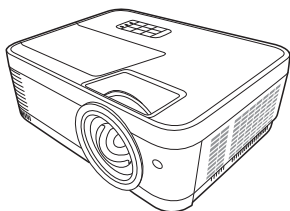
☞ 購入された製品によっては、ご使用いただけない機能があります。実際の性能は、モデルの性能により異なります。

- USB Type-C は、手軽に表示したり、1 個のコネクタからスマート機器や PC に高速で充電したりするのに便利です。
- 短焦点レンズ設計となっており、1.5 m 離れた位置からのみ 100" スクリーンに投写することができます。
- 省電力モードは、一定時間入力信号が検出されなければ、ランプの電力消費量を最大で 70% も低減します。
- プレゼンテーション時間を管理するためのプレゼンテーションタイマー
- 3D ディスプレイに対応
- カラーマネージメントにより色を自在に調整
- 省電力モードがオンのとき、電力消費量が 0.5 W 以下
- あらかじめ定義された数種類の色から壁面の色を選択できる壁の色補正
- 直ちに信号検出ができるクイック自動検索機能
- 投写目的に応じて調整可能なカラーモード
- 最善の画質で表示するワンキー自動調整機能（アナログ信号のみ）
- 画像の歪みを補正するデジタルキーストーン補正
- データ / ビデオ表示を調整可能なカラー管理コントロール
- 10.7 億色を表示可能
- 言語を選択できるオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニュー
- 消費電力を節約する標準 / 省電力モードの切り替えが可能
- コンポーネント HDTV との互換性 (YPbPr)
- HDMI CEC (Consumer Electronics Control) 機能は、プロジェクターとプロジェクターの HDMI 入力に接続された CEC 互換の DVD プレーヤー機器との間で電源のオン / オフを同期します。

☞ 投写表示の明るさは、周辺光の状態および選択した入力信号のコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。

☞ ランプの明るさは時間の経過に伴い暗くなります。また明るさはランプ製造元の仕様によって異なります。

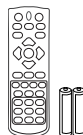
パッケージ内容



1. プロジェクター

2. 電源コード

3. USB-C ケーブル



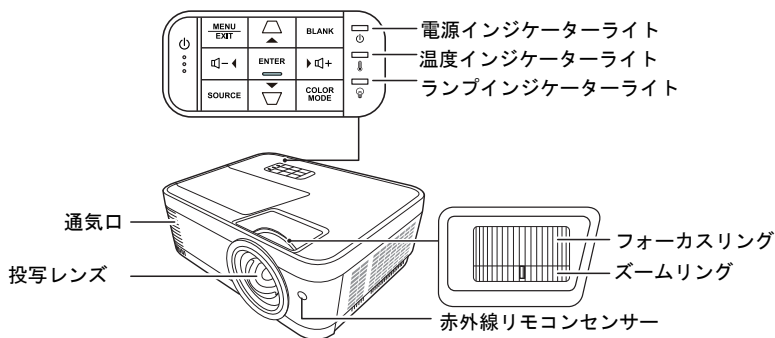
4. クイックスタートガイド

5. リモコンと電池

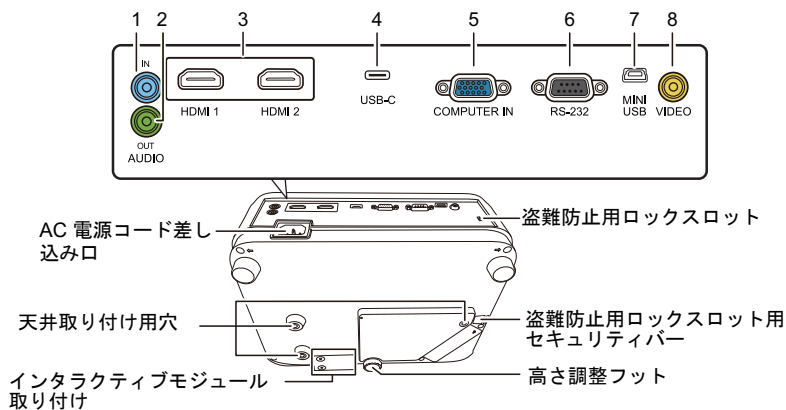
6. 交換用ランプ（別売り）

制御装置および機能

プロジェクター



- **電源**
スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
- **△/▽ (台形補正キー)**
投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
- **◀左/▶右/▲上/▼下**
オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューが有効なとき、メニューアイテムを選択し、調整を行うことができます。
- **Menu/Exit**
オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。
前の OSD メニューに戻ったり、終了してメニュー設定を保存します。
- **Source**
接続端子の選択バーを表示します。
- **Blank**
スクリーンの画像を非表示にします。
- **Enter**
OSD メニューが有効なとき、選択した OSD メニューアイテムを有効にします。
- **Color Mode**
有効な画像設定モードを選択します。
- **🔊+ (音量 +)**
音量を上げます。
- **🔊- (音量 -)**
音量を下げます。



1. AUDIO IN

オーディオ信号入力ソケット

2. AUDIO OUT

オーディオ信号出力ソケット

3. HDMI

HDMI ポート

4. USB-C

USB-C ポート

5. COMPUTER IN

RGB (PC)/ コンポーネント映像
(YPbPr/YCbCr) 信号入力ソケット

6. RS-232

RS-232 制御ポート

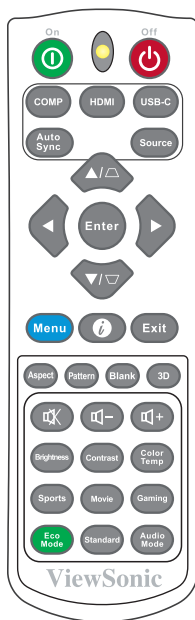
7. Mini USB (保守用)

Mini USB ポート

8. VIDEO

ビデオ入力ソケット

リモコン



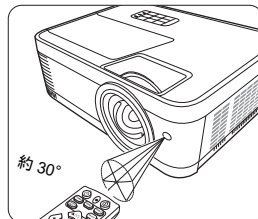
- **On/Off**
スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。
- **COMP**
COMPUTER IN ポートから表示するソースを選択します。
- **HDMI**
HDMI または HDMI 2 ポートから表示するソースを選択します。
- **USB-C**
USB-C ポートから表示するソースを選択します。
- **Auto Sync**
表示画像に最適なタイミングを自動的に決定します。
- **Source**
入力ソース選択バーを表示します。
- **△/▽ (台形補正キー)**
投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
- **Enter**
選択したオン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューのアイテムを実行します。
- **◀左/▶右/▲上/▼下**
メニューを選択し、調整を行います。
- **Menu**
オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。
- **ℹ (情報)**
情報メニューを表示します。
- **Exit**
メニュー設定を保存して終了します。

- **Aspect**
縦横比選択バーを表示します。
- **Pattern**
埋め込みテストパターンを表示します。
- **Blank**
スクリーンの画像を非表示にします。
- **3D**
3D 設定メニューを表示します。
- **🔊+ (音量+)**
音量を上げます。
- **🔊- (音量-)**
音量を下げます。
- **🔇 (ミュート)**
プロジェクターの音声をオン / オフに切り替えます。
- **Brightness**
輝度調整バーを表示します。
- **Contrast**
コントラスト調整バーを表示します。
- **Color Temp**
色温度メニューを表示します。
- **Sports**
スポーツモードを選択します。
- **Movie**
ムービーモードを選択します。
- **Gaming**
ゲームモードを選択します。
- **Eco Mode**
ランプモード選択バーを表示します。
- **Standard**
標準モードを選択します。
- **Audio Mode**
オーディオモードを選択します。

リモコンの有効範囲

赤外線 (IR) リモコンセンサーの位置については、図をご覧ください。リモコンはプロジェクターの IR リモコン センサーに対して垂直に 30 度以内の角度に持たなければ、正しく作動しません。リモコンとセンサーの距離は、8 メートル（～26 フィート）以内でなければなりません。

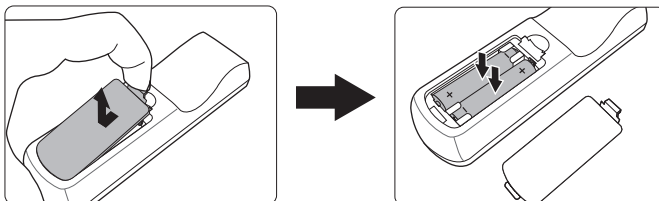
リモコンとプロジェクターの IR センサーの間に障害物があると、赤外線光線が届かない場合があります。



リモコンの電池の交換

1. バッテリーカバーを開くには、リモコンを裏返してカバーのグリップを押し、図に示す方向にスライドさせてください。
2. 挿入されている電池を外し（必要な場合）、AAA（単 4）電池 2 個を極性に注意しながら挿入してください。プラス極 (+) はプラスに、マイナス極 (-) はマイナスの方向に挿入してください。

3. 再びカバーを元に戻してください。カチッという音がしたらカバーが閉まったことを意味しています。



 注意

- リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。
- 電池メーカーが推奨するものと同じか、または同種の電池以外は使用しないでください。
- また、使用済みの電池は各自治体の回収規則にしたがって廃棄してください。
- 電池を火の中に投げ込まないでください。爆発の危険性があります。
- 電池が完全に消耗してしまったり、またはリモコンを長期間使用しないときには、漏電によりリモコンのコントロール部分が破損しないように電池は外しておいてください。

プロジェクターの配置

設置場所の選択

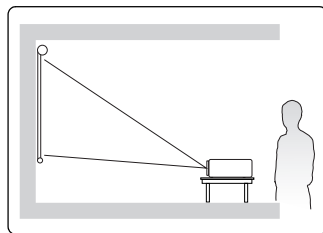
部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクターとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

本機は次の設置状態で使うことができます。

1. フロント投映

プロジェクターをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

プロジェクターの電源を入れた後で、Menu ボタンを押し、◀/▶でシステムを選択し、▲/▼で**プロジェクタの投写位置**を選択し、**フロント投映**を設定します。

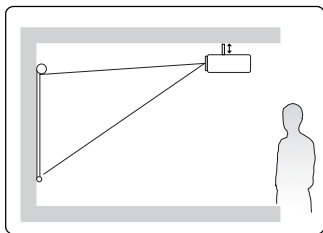


2. 天吊正面

プロジェクターを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、プロジェクター天井取り付けキットをご購入ください。

プロジェクターの電源を入れた後で、Menu ボタンを押し、◀/▶でシステムを選択し、▲/▼で**プロジェクタの投写位置**を選択し、**天吊正面**を設定します。

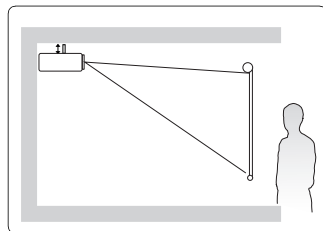


3. 天吊背面

プロジェクターを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

背面投写スクリーンとプロジェクター天井取り付けキットが必要です。

プロジェクターの電源を入れた後で、Menu ボタンを押し、◀/▶でシステムを選択し、▲/▼で**プロジェクタの投写位置**を選択し、**天吊背面**を設定します。

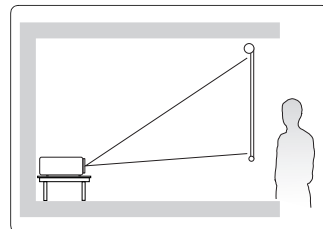


4. リア投映

プロジェクターをスクリーン背面、床面近くに設置します。

専用の背面投写スクリーンが必要です。

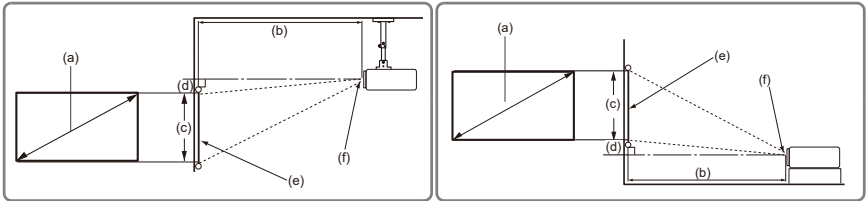
プロジェクターの電源を入れた後で、Menu ボタンを押し、◀/▶でシステムを選択し、▲/▼で**プロジェクタの投写位置**を選択し、**リア投映**を設定します。



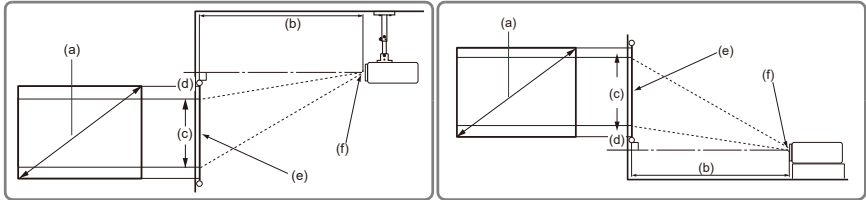
投写サイズ

- 以下に説明する「画面」とは、スクリーン表面とサポート構造から構成される投写画面のことです。
- 本プロジェクターのネイティブ解像度については、66 ページの「プロジェクターの仕様」を参照してください。

16:9スクリーンの 16:9 画像



4:3 スクリーンの 16:9 画像



(e) : スクリーン (f) : レンズ中央

(a) スクリーン サイズ		16:9 スクリーンの 16:9 画像									
		(b) 投写距離				(c) 画像の高さ		(d) 縦オフセット			
		最小		最大				最小		最大	
インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm
60	1524	36	909	43	1091	29	747	0.7	18.7	0.7	19
70	1778	42	1061	50	1273	34	872	0.9	21.8	0.9	22
80	2032	48	1213	57	1455	39	996	1.0	24.9	1.0	25
90	2286	54	1364	64	1637	44	1121	1.1	28.0	1.1	28
100	2540	60	1516	72	1819	49	1245	1.2	31.1	1.2	31
110	2794	66	1667	79	2001	54	1370	1.3	34.2	1.3	34
120	3048	72	1819	86	2183	59	1494	1.5	37.4	1.5	37
130	3302	78	1971	93	2365	64	1619	1.6	40.5	1.6	40
140	3556	84	2122	100	2547	69	1743	1.7	43.6	1.7	44
150	3810	90	2274	107	2728	74	1868	1.8	46.7	1.8	47
160	4064	95	2425	115	2910	78	1992	2.0	49.8	2.0	50
170	4318	101	2577	122	3092	83	2117	2.1	52.9	2.1	53
180	4572	107	2728	129	3274	88	2241	2.2	56.0	2.2	56

(a) スクリーン サイズ		4:3 スクリーンの 16:9 画像									
		(b) 投写距離				(c) 画像の高さ		(d) 縦オフセット			
		最小		最大				最小		最大	
インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm	インチ	mm
60	1524	33	835	39	1002	27	686	0.7	17	0.7	17
70	1778	38	974	46	1169	32	800	0.8	20	0.8	20
80	2032	44	1113	53	1336	36	914	0.9	23	0.9	23
90	2286	49	1252	59	1503	41	1029	1.0	26	1.0	26
100	2540	55	1391	66	1670	45	1143	1.1	29	1.1	29
110	2794	60	1530	72	1837	50	1257	1.2	31	1.2	31
120	3048	66	1670	79	2003	54	1372	1.4	34	1.4	34
130	3302	71	1809	85	2170	59	1486	1.5	37	1.5	37
140	3556	77	1948	92	2337	63	1600	1.6	40	1.6	40
150	3810	82	2087	99	2504	68	1715	1.7	43	1.7	43
160	4064	88	2226	105	2671	72	1829	1.8	46	1.8	46
170	4318	93	2365	112	2838	77	1943	1.9	49	1.9	49
180	4572	99	2504	118	3005	81	2057	2.0	51	2.0	51

☞ 光学部品の偏差のため、これらの数字には 3% の公差があります。プロジェクターを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクターを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお勧めします。このように準備しておくことによって、プロジェクターを最適な位置に固定することができます。

接続

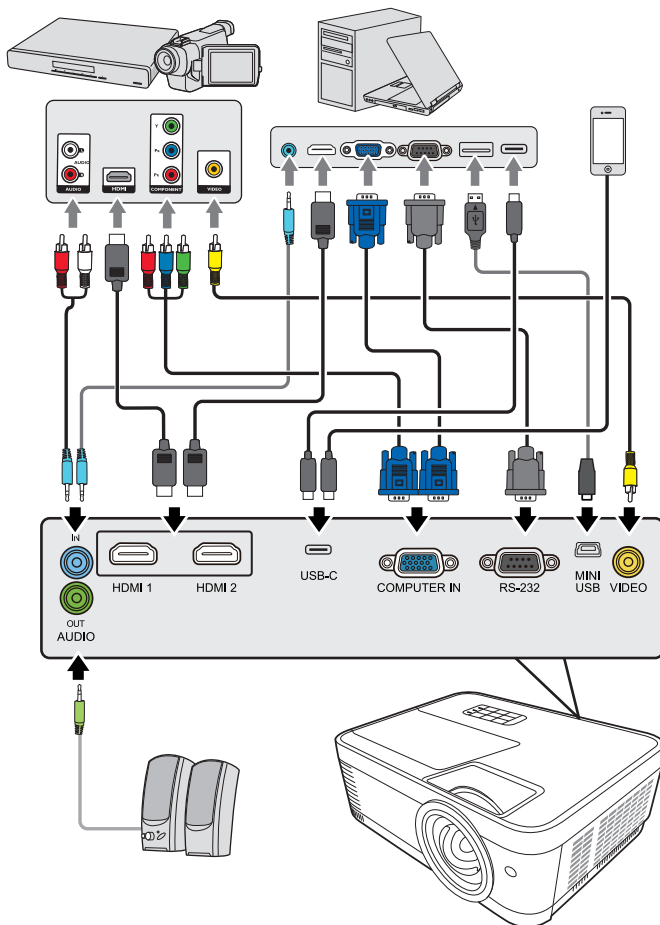
信号ソースをプロジェクターに接続する際には、次の点を確認してください。

1. 接続を行う前にすべてのデバイスの電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

☞ 下に示す接続図のケーブルは、本機に付属していません。（詳細は、5 ページの「パッケージ内容」を参照してください。）ケーブルはお近くの電気店で求めください。

☞ 下の接続図は参照用です。プロジェクターにある接続ジャックは、プロジェクターのモデル毎に異なります。

☞ 詳しい接続方法については、15-16 ページをご覧ください。



☞ USB-C はデータ、動画、音声を送信します。またデータを送信しながら給電もします。USB-IF 認証ケーブルをお使いになることをお勧めします。

コンピュータの接続

1. VGA/HDMI/USB-C ケーブルをコンピュータに接続します。
2. ケーブルのもう片端をプロジェクターの **COMPUTER IN/HDMI 1/HDMI 2/USB-C 信号入力ソケット** に接続します。

 多くのノートブックでは、プロジェクターを接続すると外付けビデオポートはオンになりません。通常は「FN」+「F3」や CRT/LCD の組み合わせによって、外付けディスプレイをオン/オフにすることができます。CRT/LCD 機能キーまたは、ノートブック上でモニター記号が示された機能キーの場所を確認します。FN と記号が記された機能キーを同時に押します。コンピュータのキーの組み合わせについては、お持ちのコンピュータの説明書をお読みください。

ビデオ機器の接続

プロジェクターは、次のいずれかの出力ソケットを備えた各種ビデオに接続できます。

- HDMI
- ビデオ（コンポジット）

いずれかの方法でプロジェクターとビデオ入力源デバイスを接続してください。ただし、方法によってビデオ品質が異なります。接続方法は、プロジェクターとビデオ機器の両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高の画質

最高品質を実現するビデオ接続方式は HDMI です。ビデオ機器に HDMI ソケットが装備されている場合は、高画質の画像をお楽しみいただけます。

プロジェクターを HDMI 入力機器に接続する方法などの情報は、[16 ページの「HDMI デバイスの接続」](#)をお読みください。

HDMI ソースを使用できない場合は、次に品質の高いビデオ信号はコンポーネントビデオです（コンポジットビデオと間違えないようにしてください）。デジタル TV チューナーと DVD プレーヤーは、コンポーネントビデオをネイティブで出力します。デバイスにこれらがある場合は、これが（コンポジット）ビデオに合った接続方式となります。

最低画質

コンポジットビデオはアナログビデオであり許容可能なレベルの画質ではありませんが、プロジェクターが発揮できる最高画質よりも品質が劣ります。ここで紹介する方法の中では最低の画質となります。

プロジェクターをコンポジットビデオ機器に接続する方法については、[16 ページの「コンポジットビデオソースデバイスとの接続」](#)をご覧ください。

オーディオ接続

プロジェクターのスピーカーを使用し、さらに別にアンプスピーカーをプロジェクターのオーディオ出力ソケットに接続することも可能です。オーディオ出力は、プロジェクターの音量調節とミュートの設定をコントロールできます。

HDMI デバイスの接続

プロジェクターと HDMI 機器を接続するには、HDMI ケーブルをお使いください。

1. HDMI ケーブルをビデオ機器の HDMI 出力ポートに接続します。
2. ケーブルのもう片端をプロジェクターの HDMI 1/HDMI 2 入力ポートに接続します。

☞ プロジェクターの HDMI 入力を介してプロジェクターと DVD プレーヤーを接続する場合、投写画像の色が正しく表示されない場合がありますが、その場合はカラースペースを YUV に変更してください。詳細は、[21 ページの「HDMI 入力設定の変更」](#)を参照してください。

コンポジット ビデオソースデバイスとの接続

使用可能なコンポジット ビデオ出力ソケットがあるか、ビデオ機器を確認してください。

1. ビデオケーブルのビデオ機器のコンポジット ビデオ出力ソケットに接続します。
2. ビデオ ケーブルのもう片端をプロジェクターの VIDEO ソケットに繋ぎます。

☞ 正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。

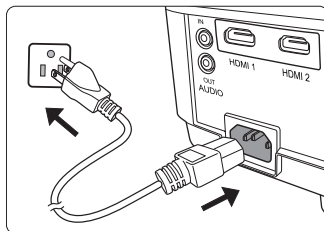
☞ コンポーネント ビデオ入力を使用できない場合にのみ、コンポジット ビデオ接続でこの機器を接続してください。詳細は、[15 ページの「ビデオ機器の接続」](#)を参照してください。

プロジェクターからサウンドを再生する

プレゼンテーションでプロジェクターのスピーカーを使用し、さらに別にアンプスピーカーをプロジェクターの AUDIO OUT ソケットに接続することも可能です。

プロジェクターの起動

1. レンズキャップがレンズについていますので、レンズに直接触れないように気を付けながら取り外してください。
2. 電源コードをプロジェクターとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。
3. **⏻電源**を押してプロジェクターを起動します。ランプが点灯するとすぐに、「電源オンの音」が聞こえます。プロジェクターがオンの間中、**電源インジケータライト**が青く点灯します。
必要であれば、フォーカスリングを使って画像の鮮明さを調整してください。



 プロジェクターが前回使用したときから完全に冷め切っていない場合は、ランプに電力が供給されるまで約 90 秒間冷却ファンが作動します。

 ランプの寿命を延長するには、プロジェクターの電源を入れた後は電源を切るまで 5 分間お待ちください。

 通知音を切る方法については、[32 ページの「電源オン / オフ音をオフにする」](#)を参照してください。

4. 初めてプロジェクターを起動する場合は、画面の指示に従って OSD 言語を選択してください。
5. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
6. プロジェクターは入力信号の検索を開始します。スキャンされている入力信号がスクリーン右下隅に表示されます。プロジェクターが有効な信号を検出しない場合は、入力信号が検出されるまで「信号なし」のメッセージが表示され続けます。
入力信号を選択するには、**Source** を押してください。詳細は、[21 ページの「入力信号の切り替え」](#)を参照してください。

 入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクターの動作範囲を超えた場合、「対応範囲外」というメッセージが消画スクリーンに表示されます。プロジェクターの解像度に合った入力信号に変えるか、入力信号を低い値に設定し直してください。詳細は、[66 ページの「プロジェクターの仕様」](#)を参照してください。

メニューの使用法

このプロジェクターは、オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。

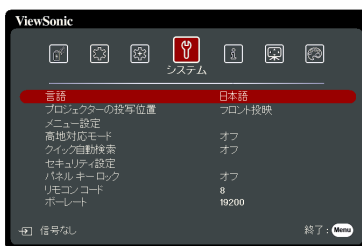
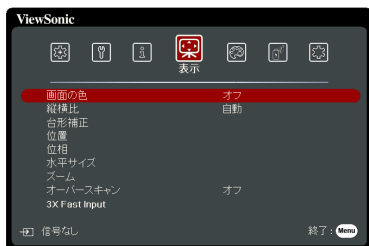
 下の OSD スクリーンショットは参照用であり、実際の仕様とは異なる場合があります。

以下に OSD メニューの概要を紹介します。

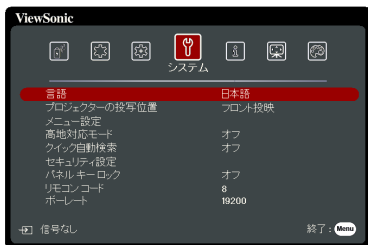


OSD メニューを使用するには、先に言語を選択します。

1. **Menu** を押して OSD メニューをオンにします。
3. **▼** を押して言語を選択し、次に **Enter** を押してください。



2. **◀/▶** を使ってシステムメニューを選択します。
4. **◀/▲/▼/▶** を使って言語を選択します。
5. **Enter** を押してメインメニューに戻り、**Menu** を押すと OSD メニューが終了します。



パスワード機能を使用する

セキュリティのため、および許可されていないユーザーがプロジェクターを勝手に使用できないように、このプロジェクターにはパスワードを設定することができます。パスワードはオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューで設定します。OSD メニューの操作については、[18 ページの「メニューの使用方法」](#)をご参照ください。

 パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。パスワードは書き留めておいて、安全な場所に保管しておいてください。

パスワードの設定

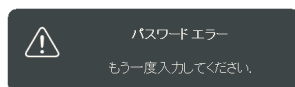
 一度パスワードを設定して電源オンロックを有効にすると、プロジェクターを起動するたびに正しいパスワードを入力しなければプロジェクターを使用することはできなくなります。

1. OSD メニューを開き、システム > セキュリティ設定メニューを選択してください。
2. Enter を押すと、セキュリティ設定ページが開きます。
3. ◀/▶ を押して、電源ロックを選択した後でオンを選択します。
4. 右図に示す通り、4 つの矢印キー (◀、▲、▼、▶) はそれぞれ 4 つの数字 (1、2、3、4) を示しています。矢印キーを押して、6 桁のパスワードを入力して設定します。
5. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
パスワードの設定が完了すると、OSD メニューはセキュリティ設定ページに戻ります。
6. OSD メニューを終了するには、Exit を押します。



パスワードを忘れた場合

パスワード機能を有効にすると、プロジェクターをオンにするたびに 6 桁のパスワードを入力するよう要求されます。間違ったパスワードを入力すると、右図のようなパスワードエラーメッセージが 5 秒間表示され、次に「パスワードの入力」というメッセージが表示されます。別の 6 桁のパスワード上を押してもう一度やり直してください。またはパスワード忘れてしまい、さらに説明書にパスワードを記録しておかなかった場合は、パスワードの呼び戻し手続きを行ってください。詳細は、[20 ページの「パスワードの呼び戻しを行うには」](#)を参照してください。



パスワード入力を続けて 5 回間違えると、プロジェクターは間もなく自動的にシャットダウンします。

パスワードの呼び戻しを行うには

1. リモコンの Auto Sync を 3 秒間押します。スクリーン上にコード化された番号が表示されます。
2. 番号を書き留めて、プロジェクターをオフにしてください。
3. 番号をデコードするには、お近くのサービスセンターにお問い合わせください。お客様がこのプロジェクターを使用できる正当なユーザーであることを確認するために、購入を証明する文書の提示を求められる場合があります。



☞ 上記スクリーンショットの「XXX」に相当する番号は、プロジェクターモデル毎に異なります。

パスワードの変更

1. OSD メニューを開き、システム > セキュリティ設定 > パスワードの変更を選択してください。
2. Enter を押します。すると「現在のパスワード」というメッセージが表示されます。
3. 古いパスワードを入力してください。
 - パスワードが正しければ、「新しいパスワード」というメッセージが表示されます。
 - パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが 5 秒間表示され、「現在のパスワード」というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。Exit を押してキャンセルするか、別のパスワードをお試しください。
4. 新しいパスワードを入力します。
5. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
6. プロジェクターに新しいパスワードが割り当てられました。次回プロジェクターを起動したときには、必ず新しいパスワードを入力してください。
7. OSD メニューを終了するには、Exit を押します。

☞ 入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。パスワードは書き留めておいて、安全な場所に保管しておいてください。

パスワード機能を無効にする

1. OSD メニューを開き、システム > セキュリティ設定 > 電源ロックを選択してください。
2. ◀/▶ を押してオフを選択します。
3. すると「パスワードの入力」というメッセージが表示されます。現在のパスワードを入力してください。
 - パスワードが正しく入力された場合は、OSD メニューの電源ロックの欄に「オフ」と表示された状態でセキュリティ設定ページに戻ります。次回プロジェクターをオンにするときには、パスワードを入力する必要はありません。

- パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが5秒間表示され、「パスワードの入力」というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。Exitを押してキャンセルするか、別のパスワードをお試しください。

 パスワード機能を無効にしても、再びパスワード機能を有効にするときに古いパスワードを入力するよう要求されますので、古いパスワードは忘れないように記録し保管しておいてください。

入力信号の切り替え

プロジェクターは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は1台です。

プロジェクターに自動的に信号を検出させるためには、システムで**クイック自動検索機能がオン**になっていることを確認してください。

また、リモコンのソース選択キーを押して信号を手動で選択したり、使用可能な入力信号を切り替えることもできます。

1. **Source** を押します。ソース選択バーが表示されます。
2. 任意の信号が選択されるまで **▲/▼** を押し、次に **Enter** を押します。

信号が検出されたら、選択したソース情報が画面に数秒間表示されます。プロジェクターに複数のデバイスが接続されている場合は、ステップ 1-2 を繰り返すと別の信号を検出することができます。

 本プロジェクターのネイティブ解像度については、**66 ページの「プロジェクターの仕様」**を参照してください。最高の画質にするには、この解像度で出力できる入力信号を選択、使用する必要があります。これ以外の解像度を使用すると、「縦横比」の設定によってプロジェクターが画像の縦横比を変更してしまうため、画像が歪んだり、鮮明さが失われたりします。詳細は、**23 ページの「縦横比の選択」**を参照してください。

HDMI 入力設定の変更

プロジェクターの HDMI 入力を介してプロジェクターとデバイス（DVD や Blu-ray など）を接続するような場合、プロジェクターの画像の色が正しく表示されないことがあります。カラースペースを出力機器のカラースペース設定に合ったものに變更してください。

これを実行するには：

1. OSD メニューを開き、**詳細 > HDMI 設定**を選択してください。
2. **Enter** を押します。
3. **HDMI フォーマット**を選択した後で **◀/▶** を押して、接続した出力機器のカラースペース設定に基づいて適切なカラースペースを選択します。
 - **RGB**：カラースペースを RGB に設定します。
 - **YUV**：カラースペースを YUV に設定します。
 - **自動**：入力信号のカラースペース設定が自動的に検出されるようにプロジェクターを設定します。
4. **HDMI 範囲**を選択した後で **◀/▶** を押して、接続した出力機器のカラー範囲の設定に基づいて適切な HDMI カラー範囲を選択します。
 - **拡張**：HDMI カラー範囲を 0 - 255 として設定します。
 - **ノーマル**：HDMI カラー範囲を 16 - 235 として設定します。

- ・ **自動**：プロジェクターに入力信号の HDMI 範囲を自動的に検出させます。

この機能は HDMI 入力ポート使用中にしか有効になりません。

カラースペースと HDMI 範囲の設定については、機器の取り扱い説明書をご覧ください。

投写画像の調整

投写角度の調整

プロジェクターには高さ調整用脚が 1 個付いています。この調整用脚を使用すると、画像の高さと縦の投写角度を変更できます。高さ調節用脚を使って、画像が正しく表示されるように角度を微調整してください。

プロジェクターが床に対して水平な場所に設置されていない場合、またはスクリーンとプロジェクターが垂直に設置されていない場合は、投写画像が台形になります。このような問題を補正する方法については、[22 ページの「台形補正」](#)を参照してください。

⚠ ランプが点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。ランプからは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。

画像の自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、リモコンの **Auto Sync** を押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、5 秒以内に最適な画質が得られます。

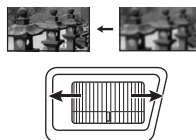
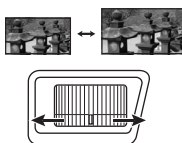
下図のように、現在のソース情報がスクリーンの左上隅に 3 秒間表示されます。

自動調整が機能している間は、ViewSonic ロゴが表示されます。

この機能は PC D-Sub 入力信号（アナログ RGB）が選択されている場合にしか使用できません。

画像の明瞭さの微調整

1. 投写されたイメージのサイズを調整するには、ズームリングを使用します。
2. 必要であれば、フォーカスリングを回して焦点を合わせます。



台形補正

台形とは、まっすぐに投写されなかったために、投写画像の上部または下部のいずれかが明らかに長くなる状態のことです。

これを手動で修正するには、プロジェクターの高さを調整するほか、次のいずれかの手順に従って修正する必要があります。

- ・ リモコンの使用法

1. □ / ▢ を押すと、台形補正ページが表示されます。
2. ▢ を押すと、画像の上部の台形が補正されます。□ を押すと、画像の下部の台形が補正されます。



- ・ OSD メニューの使用法

1. OSD メニューを開き、**表示 > 台形補正 > 手動**を選択してください。
2. **Enter** を押します。
3. 画像の上部の歪みを調整するには ▢ を押します。画像の下部の歪みを調整するには、□ を押します。

これを自動で修正するには、**表示 > 台形補正 > 自動台形補正**を開き、**オン**を選択します。

詳細の拡大と検索

投写画像で詳細を見つけ出したい場合は、画像を拡大してください。矢印キーを使用すると、画像をナビゲートできます。

- ・ OSD メニューの使用法

1. OSD メニューを開き、**表示 > ズーム**を選択してください。
2. **Enter** を押します。するとズームバーが表示されます。方向矢印（▲、▼）を使って画像を拡大または縮小します。
3. 1.1x 以上に拡大した画面を上下左右に移動させる機能を使用することができます。（パンチルト機能）パンチルトコントローラーはズームバーの下にあります。ズームが 1.1x 以上に設定した時に **Enter** を押します。拡大率が固定され、リモコンの方向矢印（◀、▲、▼、▶）を押して上下左右と見たい位置に画面を動かします。
注 :1.0x 以下ではパンチルト機能は使用できません。
4. ズームバーやパンチルトコントローラーを使用した後にもとの画面の大きさに戻すには、リモコンの **Auto Sync** ボタンを押します。

☞ この調整可能な範囲は、縦横比によって変わります。

☞ 画像は拡大しなければナビゲートできません。詳細を検索しながら、画像をさらに拡大することができます。

縦横比の選択

「縦横比」は、イメージの幅と高さの比率のことです。

デジタル信号処理能力が進化するにつれて、このプロジェクターのようなデジタルディスプレイ装置はイメージ出力をイメージ入力信号とは異なるアスペクトにまで拡張できるようになりました。

用途に合った画像比率を選択するには（ソースの縦横比に関係なく）、次のいずれかの手順にしたがってください。

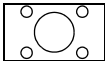
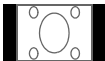
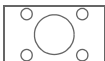
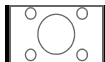
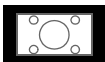
- ・ **Aspect** を繰り返し押します。
- ・ **表示 > 縦横比**を開き、**Enter** を押します。▲/▼ を押して、ビデオ信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。

縦横比について

1. **自動**：イメージをプロジェクター本来の解像度の水平幅に合わせて表示します。これは入力イメージが 4:3 でも 16:9 でもなく、画像の縦横比を変えずにスクリーンを有効に活用したいときに便利です。
2. **4:3**：スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更せずにすむため、ある種のコンピュータモニター、標準精度の TV、縦横比 4:3 の DVD ムービーなどの 4:3 イメージに適しています。
3. **16:9**：スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要があるため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっているイメージに適しています。
4. **16:10**：スクリーンの中央が 16:10 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更する必要のない、縦横比 16:10 の画像に適しています。
5. **ネイティブ**：イメージはその本来の解像度で投写され、表示エリアに合わせてリサイズされます。低解像度の入力信号の場合は、投写画像が本来のサイズで表示されます。
6. **2.35:1**：画像の縦横比を維持しながら、スクリーンの中心が 2.35:1 になるように画像を調整します。

下の表は、異なるネイティブ解像度を持つプロジェクターの縦横比の設定の効果を一覧にしたものです。本プロジェクターのネイティブ解像度については、[66 ページの「プロジェクターの仕様」](#)を参照してください。

 下の図では黒い部分が無効になったエリアで、白い部分が有効なエリアです。未使用の黒いエリアには OSD メニューを表示することができます。

縦横比の設定	プロジェクターのネイティブの縦横比が ...	
	16:9	
自動		
4:3		
16:9		
16:10		
ネイティブ		
2.35:1		

画像の最適化

カラーモードの選択

このプロジェクターは操作環境や入力信号のタイプによって自由に選択できるように、いくつかのカラーモードが設定されています。

- **画像 > カラーモード**を開き、**Enter** を押します。**▲/▼** を押して、モードを選択します。

カラーモードは、次のとおりです。

1. **最大輝度モード**：画像の輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクターを明るい部屋で使用する場合など）。
2. **スポーツモード**：明るい場所でスポーツを観戦するのに適しています。
3. **標準モード**：日中の標準の環境のときに選択します。
4. **ゲームモード**：ビデオゲームを楽しむためのモードです。
5. **ムービーモード**：このモードはやや暗めの部屋で、PC 入力を介してデジタルカメラや DVD からのカラームービーやビデオクリップを再生するのに適しています。

画面の色の使い方

白以外でペイントされた壁に画像を投写するような場合は、入力源の色と投写画像の色の違いを補正するために**画面の色**機能を使うことができます。

この機能を使用するには、**表示 > 画面の色**に進み、**Enter** を押します。**▲/▼** を押して投写面の色に近い色を選択します。あらかじめ調整された色には次のようなものがあります：**ホワイトボード**、**黒板**、**グリーンボード**。これらの設定の効果は、モデル毎に異なります。

 この機能は、VGA または HDMI 入力信号からの PC タイミングに対してのみ使用することができます。

ユーザーモードの画質の微調整

検出した信号タイプに応じて、いくつかの機能をユーザー定義することができます。必要に応じてこれらの機能を調整してください。

輝度の調整

画像 > 輝度を開き、**Enter** を押します。

値を高くするほどイメージの輝度が増加します。設定値が小さいほどイメージは暗くなります。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。



コントラストの調整

画像 > コントラストを開き、Enter を押します。

値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて輝度を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。



色温度の選択

画像 > 色温度を開き、◀/▶ を押します。

色温度設定のオプションは、選択した信号タイプによって異なります。

1. 冷：最高の色温度のとき、冷は他の設定よりも画像をより青白く再現します。
2. ノーマル：白の色合いを通常に保ちます。
3. 暖：画像を赤みがかった白で表示します。

任意の色温度を設定

1. 画像 > 色温度を開き、Enter を押します。
2. ◀/▶ を押して冷、ノーマル、または暖を押して Enter を押します。
3. ▲/▼ を押して変更したいアイテムを選択し、◀/▶ を押して値を調整します。
 - ・ 赤ゲイン / 緑ゲイン / 青ゲイン：赤、緑、青のコントラストレベルを調整します。
 - ・ 赤オフセット / 緑オフセット / 青オフセット：赤、緑、青の輝度レベルを調整します。

この機能は、VGA または HDMI 入力信号からの PC タイミングに対してのみ使用することができます。

色の調整

画像 > 詳細設定 > 色に進み、◀/▶ を選択します。

設定を下げると、彩度が低くなります。逆に値を上げすぎると、画像の色が不自然に強調されてしまいます。

この機能は、入力信号が Video (ビデオ)、YPbPr、YCbCr に選択されている場合にしか使用できません。

色調の調整

画像 > 詳細設定 > 色調に進み、◀/▶ を選択します。

値を高くするほど緑がかった画像になります。値を低くするほど赤味がかった画像になります。

この機能は、入力信号が Video (ビデオ)、YPbPr、YCbCr に選択されている場合にしか使用できません。

シャープネスの調整

画像 > 詳細設定 > シャープネスに進み、◀/▶ を選択します。

値を高くするほど画像がシャープになります。値を低くするほど画像が柔らかくなります。

 この機能は、入力信号が Video（ビデオ）、YPbPr、YCbCr に選択されている場合にしか使用できません。

Gamma 設定の選択

画像 > 詳細設定 > Gamma を選択し、◀/▶ を押して任意の設定を選択します。

ガンマとは、入力ソースと画像の輝度の関連性のことです。

Brilliant Color の調整

画像 > 詳細設定 > Brilliant Color に進み、◀/▶ を選択します。

この機能は新しい色処理アルゴリズムとシステムレベルでの向上を利用して、投写映像によりリアルで鮮やかな色を提供すると共に、明るさをより高めることができます。ビデオや自然のシーンでよく見られる中間調イメージであれば、50% 以上も輝度を上げることができますので、リアルで自然な色を再現することが可能です。高画質が必要な場合は、必要に応じてレベルを調整してください。そうでない場合は、オフを選択してください。

画像ノイズの低減

画像 > 詳細設定 > Noise Reduction に進み、◀/▶ を選択します。

異なるメディアプレーヤによる電気画像ノイズを軽減します。値を高くするほどノイズが少なくなります。

 この機能は、入力信号が PC または Video（ビデオ）に選択されている場合にしか使用できません。

色管理

重役会議室、レクチャシアター、ホームシアターなど、照明レベルを調整できる場所に設置した場合に限り、カラーマネージメントが必要となります。カラーマネージメントを使用すると、色をより正確に再現するために、より詳細に色を調整することができます。

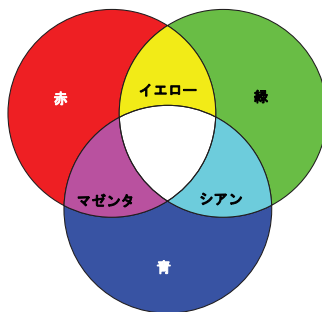
さまざまな色テストパターンが含まれたテストディスクを購入された場合は、モニター、TV、プロジェクターなどでの色表示をテストすることができます。ディスクに保管された画像ならどれでもスクリーンに投写することが可能であり、3D カラーマネージメントで調整することができます。

設定を調整するには：

1. OSD メニューを開き、画像 > 詳細設定 > 3D カラーマネージメントを選択してください。
2. Enter を押すと、3D カラーマネージメントページが開きます。
3. 原色を選択し、◀/▶ を押して赤、イエロー、緑、シアン、青、マゼンタの中から色を選択します。
4. ▼ を押して色相を選択し、◀/▶ を押して範囲を選択します。範囲を広げると、隣り合う 2 色のより広い範囲の色が含まれます。

各色がどのように関連し合っているのかについては、右図を参照してください。

例えば、赤を選択し、その範囲を0に設定した場合、投写画像の中で純粋な赤だけが選択されます。範囲を広げると、イエローに近い赤やマゼンタに近い赤も含まれます。



5. ▼ を押して**彩度**を選択し、◀/▶ を押して値を調整します。調整内容は直ちに画像に反映されます。

例えば、赤を選択し、その範囲を0に設定した場合、純粋な赤の彩度だけが影響を受けます。

☞ 彩度はビデオ映像の色の量のことです。値を低くすると彩度が低くなります。「0」に設定すると、画像から完全に色を抜いてしまいます。彩度が高すぎると、色が濃すぎて非現実的な色になってしまいます。

6. ▼ を押して**ゲイン**を選択し、◀/▶ を押して値を調整します。選択した原色のコントラストレベルが影響を受けます。調整内容は直ちに画像に反映されます。
7. 他のカラーマネージメントも行う場合は、ステップ3から6を繰り返し替えてください。
8. すべて調整が完了したことを確認してください。

プレゼンテーションタイマーの設定

プレゼンテーションタイマーはプレゼンテーション時間をスクリーン上に表示して、発表者が上手く時間管理できるようにします。この機能を使用するには、次の手順にしたがってください。

・ OSD メニューの使用方法

1. **基本 > プレゼンテーションタイマー**に進みます。
2. **Enter** を押して**プレゼンテーションタイマー**を表示します。
3. **タイマーの時間**を選択し、◀/▶ を使ってプレゼンテーション時間を設定します。タイマー時間は1分から5分まで1分おきに、5から240分まで5分おきに設定できます。

☞すでにタイマーがオンになっている場合は、タイマーの時間をリセットするとタイマーがカウントを新しく開始します。

4. ▼ を押して**タイマー表示**を選択し、◀/▶ を押してタイマーを画面に表示するかどうかを選択します。

選択	説明
常に使用する	プレゼンテーション中、常にタイマーをスクリーン上に表示します。
1 min/2 min/3 min	タイマーを最後の 1/2/3 分間だけ表示します。
常に使用しない	プレゼンテーション中、タイマーを表示しません。

- ▼ を押して**タイマーの位置**を選択し、◀/▶ を押してタイマーの位置を決定します。

左上 → 左下 → 右上 → 右下

- ▼ を押して**タイマーのカウント方法**を選択し、◀/▶ を押してカウント方向を選択します。

選択	説明
増加	0 からあらかじめ設定した時間までカウントを重ねます。
減少	あらかじめ設定した時間から 0 までカウントダウンします。

- ▼ を押して**サウンドによる通知**を選択し、◀/▶ を押すことによってサウンドによる通知を有効にするかどうかを決定してください。**オン**を選択すると、カウントダウン / アップが残り 30 秒になると、ビーツという音が 2 回鳴り、タイプアップすると 3 回鳴ります。
- プレゼンテーションタイマーを有効にするには、▼ を押した後、◀/▶ を押して**カウント開始**を選択し、Enter を押します。
- スクリーン上に「**タイマーはオンです**」というメッセージが表示されます。タイマーがオンになると、タイマーがカウントを開始します。

タイマーを中止するには、次の手順にしたがってください：

- リモコンの ☺ を押すか、**基本 > プレゼンテーション タイマー**を選択します。
- オフ**を選択してください。Enter を押します。
- スクリーン上に「**タイマーはオフです**」というメッセージが表示されます。

画像を隠す

プロジェクターからリモコンの **Blank** を押すとスクリーンの画像が消えるため、聴衆の関心をすべて講演者に向けることができます。プロジェクターまたはリモコンのキーをどれでも押すと、画像を再開することができます。イメージが非表示になると、スクリーンの隅に、「**BLANK**」と表示されます。

消画時間を**基本 > 画面オフタイマー**で設定しておく、消画面面でも何も操作が行われないときには、一定時間が経過すると自動的にプロジェクターが画像を表示します。

 **Blank** を押すと、プロジェクターは最小限の電力しか消費しません。

 **注意**

投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

コントロールキーをロックする

プロジェクターのコントロールキーをロックしておく、(例えばお子様によって) プロジェクターの設定が誤って変更されるのを防止することができます。パネルキー ロックがオンになっているときには、プロジェクターのコントロールキーは ① 電源を除き、どれも作動しません。

1. システム > パネル キー ロックを開きます。
2. Enter を押した後、▲/▼ を押してオンを選択します。
3. すると確認のメッセージが表示されます。はいを選択して確定します。パネルキー ロックを解除するには、プロジェクターの ► を 3 秒間押します。

リモコンを使ってシステム > パネル キー ロックに入り、オフを選択します。

☞ パネルキー ロックが有効になっていても、リモコンのキーは使用できます。

☞ パネルキー ロックを無効にせずに ① 電源を押してプロジェクターをオフにすると、プロジェクターを次回オンにしたときにもロックされたままの状態になっています。

高地での操作

海拔 1500 m ~ 3000 m、気温 5 °C ~ 25 °C の環境で本製品を使用する場合は、高地対応モードを使用されるようお勧めします。



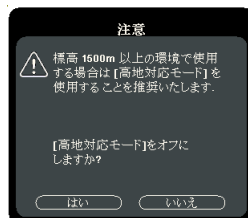
高度 0 m ~ 1499 m、温度 5 °C ~ 35 °C の範囲内では高地対応モードは使用しないでください。このような環境でこのモードを有効にすると、プロジェクターが過度に冷却されてしまいます。

高地対応モードに設定するには：

1. OSD メニューを開き、システム > 高地対応モードを選択してください。
2. Enter を押した後、◀/▶ を押してオンを選択します。すると確認のメッセージが表示されます。
3. はいを選択し、Enter を押します。

「高地対応モード」を選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが大きくなる場合があります。

上記の場合を除き、それ以外の極限環境でプロジェクターを使用すると、プロジェクターが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクターを過熱から保護するために施された機能です。このような場合は、高地対応モードに切り替えてこのような現象を解決してみてください。ただし、これはこのプロジェクターが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。



CEC 機能の使い方

このプロジェクターは、HDMI 接続を介して電源のオン / オフ操作を同期できる CEC (Consumer Electronics Control) 機能に対応しています。つまり、CEC 機能に対応しているデバイスがプロジェクターの HDMI 入力に接続されていると、プロジェクターの電源を切ったときには、接続したデバイスの電源も自動的に切れまです。接続してあるデバイスの電源を入ると、プロジェクターの電源も自動的に入ります。

CEC 機能を有効にする：

1. OSD メニューを開き、**電源管理 > 自動電源オン > CEC** を選択してください。
2. ◀/▶ を押して**有効**を選択します。

 CEC 機能を正常に機能させるには、HDMI ケーブルで機器をプロジェクターの HDMI 入力に正しく接続すると CEC 機能が有効になります。

 接続したデバイスによっては、CEC 機能が作動しない場合があります。

3D 機能の使用方法

このプロジェクターには、画像に深みを与えることで 3D ムービー、動画、スポーツイベントをよりリアルにご覧いただける 3D 機能が搭載されています。3D 映像をご覧になるには、3D メガネを着用する必要があります。

HDMI 1.4a 対応デバイスから 3D 信号が出力されている場合は、プロジェクターは 3D 同期情報の信号を検出し、自動的に 3D 形式で投写します。それ以外の場合は、3D 画像を正しく投写するために、以下 1 ～ 3 の手順でフォーマットを選択してください。

1. **詳細** を押し、リモコンの **Enter** を押します。
2. **3D 設定** から **Enter** を押し、**3D 同期** を選択します。
3. ▼ を押して、視聴する 3D フォーマットにふさわしい項目を選択し **3D 同期** を選択し、**Menu** ボタンを押します。

 3D 同期機能がオンのとき：

- 投写画像の輝度が下がります。
- 3D 画像の深さが逆転している場合は、3D 逆同期機能を逆転させると問題が解決します。
- 信号の種類によっては、自動的に 3D 映像は表示されません。3D メガネの受信範囲をご確認のうえ、ご使用ください。
- 3D 映像の見えかたには個人差があります。

スタンバイモードでプロジェクターを使う

プロジェクターの一部の機能はスタンバイモード（接続されているがオンになっていない）で使用することができます。これらの機能を使用するには、ケーブルが正しく接続されているか確認してください。接続方式については、[接続](#)の章をお読みください。

オーディオ出力有効

電源管理 > スタンバイ設定 > オーディオ出力有効で **オン**を選択すると、Audio In ソケットと Audio Out ソケットが正しく機器に接続されているときオーディオ信号を出力します。

サウンドの調整

次の手順はプロジェクターのスピーカーの音量調整を行うためのものです。プロジェクターのオーディオ入力/出力ジャックが正しく接続されていることを確認してください。詳細は、[14 ページの「接続」](#)を参照してください。

オーディオモードの調整

1. OSD メニューを開き、**基本 > オーディオ設定 > オーディオモード**を選択してください。
2. ◀/▶ を押して、オーディオモードを選択します。

オーディオ体験をより楽しめるように、複数のオーディオモードが用意されています。

- **標準モード**：バランスの取れた、快適なオーディオをお楽しみいただけます。
- **ゲームモード**：高周波数でゲームをお楽しみいただけます。
- **ムービーモード**：ムービーを鑑賞するために低音を向上させて最適化します。

無音にする

1. OSD メニューを開き、**基本 > オーディオ設定 > ミュート**を選択してください。
2. ◀/▶ を押して**オン**を選択します。

音量を調整する

1. OSD メニューを開き、**基本 > オーディオ設定 > オーディオ音量**を選択してください。
2. ◀/▶ を押して、音量を選択します。

 リモコンに  があれば、これを押してプロジェクターの音量を調整することができます。

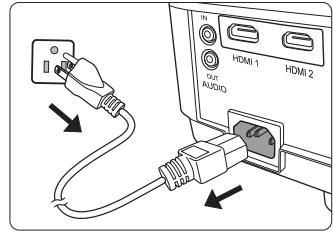
電源オン / オフ音をオフにする

1. OSD メニューを開き、**基本 > オーディオ設定 > 電源オン / オフ音**を選択してください。
2. ◀/▶ を押して**オフ**を選択します。

 電源オン / オフ音を変更するには、ここでオンまたはオフを設定する以外に方法はありません。無音にしたり、音量を変更したりしても、電源オン / オフ音には影響しません。

プロジェクターをシャットダウンする

1. ①電源または①Offを押すと、確認を促すメッセージが表示されます。
数秒以内に応答しなければ、メッセージは自動的に消えます。
2. 再度①電源または①Offを押します。
3. 冷却が完了すると、「電源オフ音」が聞こえます。長時間プロジェクターを使用しない場合は、コンセントから電源コードを抜いてください。



 通知音を切る方法については、[32 ページの「電源オン / オフ音をオフにする」](#)を参照してください。

注意

- ランプを保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクターはいかなるコマンドにも反応しません。
- プロジェクターのシャットダウン シーケンスが完了するまでは、電源コードを抜かないでください。

メニューの操作

メニュー システム

オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

メニューアイテムはプロジェクターが最低 1 つの有効な信号を検出しなければ有効にはなりません。プロジェクターに装置が接続されていなかったり、信号が何も検出されなければ、限られたメニューアイテムにしかアクセスすることができません。

メイン メニュー	サブメニュー	オプション
1. 表示	画面の色	オフ / ホワイトボード / 黒板 / グリーンボード
	縦横比	自動 /4:3/16:9/16:10/ ネイティブ /2.35:1
	台形補正	自動台形補正 手動
	位置	
	位相	
	水平サイズ	
	ズーム	
	オーバースキャン	オフ /1/2/3/4/5
	3X Fast Input	非アクティブ / アクティブ
2. 画像	カラーモード	最大輝度 / スポーツ / 標準 / ゲーム /ムービー
	輝度	
	コントラスト	
	色温度	暖 ノーマル 冷
		赤ゲイン / 緑ゲイン / 青ゲイン / 赤オフセット / 緑オフセット / 青オフセット
	色	
	色調	
	シャープネス	
	Gamma	C1/C2/C3/C4/C5/C6/C7/C8/G1/G2/G3/G4/ G5/sRGB
	詳細設定	Brilliant Color オフ /1/2/3/4/5/6/7/8/9/10
		Noise Reduction
		原色
	3D カラーマ ネージメント	色相 彩度 ゲイン
	カラー設定をリセット	リセット / キャンセル

メインメニュー	サブメニュー		オプション
3. 電源管理	自動電源オン	信号	無効 /VGA/HDMI/ すべて
		CEC	無効 / 有効
		ダイレクト電源オン	オン / オフ
	スマート エネルギー	自動パワーオフ	無効 /10 分 /20 分 /30 分
		スリープ タイマー	無効 /30 分 /1 時間 /2 時間 /3 時間 /4 時間 /8 時間 /12 時間
		省電力	有効 / 無効
	スタンバイ設定	オーディオ出力有効	オン / オフ
	スマート再起動		無効 / 有効
4. 基本	クイック電源オフ		無効 / 有効
	オーディオ設定	オーディオモード	標準 / ゲーム / ムービー
		ミュート	オン / オフ
		オーディオ音量	
		電源オン / オフ音	オン / オフ
	プレゼンテーション タイマー	タイマーの時間	1~240 分
		タイマー表示	常に使用する /1 min/2 min/3 min/ 常に使用しない
		タイマーの位置	左上 / 左下 / 右上 / 右下
		タイマーのカウント方法	減少 / 増加
		サウンドによる通知	オン / オフ
		カウント開始 / オフ	
	パターン		オフ / テストカード
	画面オフタイマー		無効 /5 分 /10 分 /15 分 /20 分 /25 分 /30 分
	メッセージ		オン / オフ
	スプラッシュスクリーン		青 /ViewSonic/ オフ

メインメニュー	サブメニュー		オプション
5. 詳細	3D 設定	3D 同期	自動 / オフ / フレーム シーケンシャル / フレーム パッキング / 上 - 下 / 横に並べる
		3D 逆同期	無効 / 逆転
	HDMI 設定	HDMI フォーマット	自動 / RGB / YUV
		HDMI 範囲	自動 / 拡張 / ノーマル
	ランプ設定	ランプ モード	ノーマル / Eco / Dynamic Eco / スーパーエコ
		ランプ時間をリセット	リセット / キャンセル
		ランプ時間	
	フィルタ設定	フィルタモード	オン / オフ
		フィルタ時間をリセッ ト	リセット / キャンセル
		フィルタ時間	
6. システム	DCR		オン / オフ
	クローズドキャプ ション		CC1/CC2/CC3/CC4
	設定をリセットす る		リセット / キャンセル
	言語		多言語 OSD 選択
	プロジェクターの投写位置		前面投写 / リア投写 / 天井リア投写 / 天井前面 投写
	メニュー設定	メニュー表示時間	5 秒 / 10 秒 / 15 秒 / 20 秒 / 25 秒 / 30 秒
		メニュー位置	中央 / 左上 / 右上 / 左下 / 右下
	高地対応モード		オン / オフ
	クイック自動検索		オン / オフ
	セキュリティ設定	パスワードの変更	
		電源ロック	オン / オフ
	パネル キー ロッ ク		オン / オフ
	ボーレート		2400/4800/9600/14400/ 19200/38400/57600/ 115200

メインメニュー	サブメニュー	オプション
7. 情報	・ ソース ・ カラーモード ・ 解像度 ・ カラー システム ・ ファームウェアバージョン ・ 3X Fast Input ・ S/N	

各メニューの説明

		機能	説明
1. 表示	画面の色		詳細は、25 ページの「画面の色の使い方」を参照してください。
	縦横比		詳細は、23 ページの「縦横比の選択」を参照してください。
	台形補正		詳細は、22 ページの「台形補正」を参照してください。
	位置		位置調整ページが開きます。投写画像を移動させるには、方向矢印キーを使用します。ページの下に表示される値は、キーを押すたびにその最高値または最低値に達するまで変化します。  この機能は PC 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。  調整範囲はタイミング毎に異なります。
	位相		画像の歪みを減少させるためにクロック位相を調整します。   この機能は PC 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。
	水平サイズ		イメージの幅を調整します。  この機能は PC 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。
	ズーム		詳細は、23 ページの「詳細の拡大と検索」を参照してください。
	オーバースキャン		オーバースキャン率を 0% から 5% の範囲で調整します。  この機能はコンポジットビデオ、コンポーネントビデオ、または HDMI 入力信号が選択されている場合にしか使用できません。
	3X Fast Input		はいを選択すると、機能が有効になります。この機能は、フレームレートを下げたいときに有効です。ネイティブタイミングでは応答時間が早くなります。有効にすると、次の設定が初期値に戻されます：縦横比、台形補正、位置、ズーム、オーバースキャン。  この機能は、ネイティブのタイミング入力信号が選択されている場合にしか使用できません。

	機能	説明
2. 画像	カラーモード	詳細は、25 ページの「カラーモードの選択」を参照してください。
	輝度	詳細は、25 ページの「輝度の調整」を参照してください。
	コントラスト	詳細は、26 ページの「コントラストの調整」を参照してください。
	色温度	詳細は、26 ページの「赤ゲイン / 緑ゲイン / 青ゲイン : 赤、緑、青のコントラストレベルを調整します。」と 26 ページの「任意の色温度を設定」を参照してください。
	詳細設定	色 詳細は、26 ページの「色の調整」を参照してください。 色調 詳細は、26 ページの「色調の調整」を参照してください。 シャープネス 詳細は、26 ページの「シャープネスの調整」を参照してください。 Gamma 詳細は、26 ページの「赤ゲイン / 緑ゲイン / 青ゲイン : 赤、緑、青のコントラストレベルを調整します。」を参照してください。 Brilliant Color 詳細は、27 ページの「Brilliant Color の調整」を参照してください。 Noise Reduction 詳細は、27 ページの「画像ノイズの低減」を参照してください。 3D カラーマネージメント 詳細は、27 ページの「色管理」を参照してください。
	カラー設定をリセット	すべての色設定を工場出荷時の値に戻します。

機能	説明
3. 電源管理 自動電源オン	信号 VGA/HDMI を選択すると、VGA/HDMI ケーブルから VGA/HDMI 信号が入力されると、プロジェクターが自動的にオンになります。また、すべてを選択すると、VGA 信号か HDMI 信号を受信すると同時にプロジェクターが自動的にオンになります。 CEC 詳細は、30 ページの「CEC 機能の使い方」を参照してください。 ダイレクト電源オン オンに設定すると、電源コードから電源が供給されたときに、プロジェクターが自動的にオンになります。
	自動パワーオフ 詳細は、45 ページの「自動パワーオフを設定」を参照してください。 スリープタイマー 詳細は、45 ページの「スリープタイマーを設定」を参照してください。 省電力 詳細は、46 ページの「省電力を設定」を参照してください。
	スタンバイ設定 詳細は、32 ページの「スタンバイモードでプロジェクターを使う」を参照してください。
	スマート再起動  この機能を作動させるには、少し時間がかかります。プロジェクターが 4 分以上オンの状態であるか確認してください。スマート再起動機能を使ってプロジェクターを再開すると、この機能をすぐに実行することが可能です。  有効を選択すると、クイック電源オフ機能が自動的に「有効」に設定できます。
クイック電源オフ	有効を選択すると機能が有効になり、シャットダウン後もプロジェクターは冷却処理に入りません。無効を選択すると機能が無効になり、シャットダウン後も通常の冷却処理に入ります。  プロジェクターの電源を切った直後に再起動しようとする、再起動できずに冷却処理が再度実行されます。  無効を選択すると、スマート再起動機能が自動的にオフになります。

	機能	説明
4. 基本	オーディオ設定	詳細は、32 ページの「サウンドの調整」を参照してください。
	プレゼンテーション タイマー	詳細は、28 ページの「プレゼンテーションタイマーの設定」を参照してください。
	パターン	プロジェクターはひとつのテストパターンを表示できます。これはイメージサイズとフォーカスを調整し、投写画像に歪みがないことを確認するのに役立ちます。
	画面オフタイマー	詳細は、29 ページの「画像を隠す」を参照してください。
	メッセージ	オンを選択すると、プロジェクターが信号を検出したり、検出したりするときに現在の情報がスクリーンに表示されます。
	スプラッシュ スクリーン	プロジェクター起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。
5. 詳細	3D 設定	詳細は、31 ページの「3D 機能の使用方法」を参照してください。
	HDMI 設定	詳細は、21 ページの「HDMI 入力設定の変更」を参照してください。
	ランプ設定	ランプ モード 詳細は、45 ページの「ランプ モードを設定」を参照してください。 ランプ時間をリセット 新しいランプに交換した後は、ランプタイマーがリセットされます。ランプを交換する場合は、専門のサービス担当者にお問い合わせください。 ランプ時間 ランプの使用時間を計算する方法については、45 ページの「ランプ時間を見る」を参照してください。
	フィルタ設定	詳細は、45 ページの「ランプ情報」を参照してください。
	DCR	DCR (Dynamic Contrast Ratio) 機能を有効または無効にします。オンを選択すると機能が有効になり、検出された入力画像に応じてプロジェクターが自動的にランプモードを切り替えます。  この機能は、VGA または HDMI 入力信号からの PC タイミングに対してのみ使用することができます。  DCR を有効にすると、頻繁にランプモードを切り替えることでランプの寿命が短くなり、作動中のノイズレベルも変わります。

機能	説明
5. 詳細	選択した入力信号がクローズドキャプションを含むとき、CC1、CC2、CC3、CC4（CC1はお住まい地域の主要言語でのキャプションを表示します）を選択すると機能が有効になります。 キャプション：TV 番組や動画のダイアログ、ナレーション、サウンド効果が画面に表示されます（TV 番組表には通常「CC」と表記されます）。  この機能はコンポジットビデオ入力信号が選択され、システムフォーマットが NTSC の場合にしか使用できません。
	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。  次の設定は現在の設定値のまま維持されます：台形補正、位相、水平サイズ、オーバースキャン、言語、プロジェクタの投写位置、高地対応モード、セキュリティ設定、3D 同期、フィルターセッティング、HDMI 設定。
6. システム	言語 オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューの言語を設定します。詳細は、18 ページの「メニューの使用法」を参照してください。
	プロジェクターの投写位置 詳細は、11 ページの「設置場所の選択」を参照してください。
	メニュー設定 メニュー表示時間 最後にキーを押してから OSD の表示時間を設定します。設定は 5 秒毎に 5 から 30 秒までの範囲で設定できます。 メニュー位置 オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューの位置を設定します。
	高地対応モード 高地で使用する場合の操作モードです。詳細は、30 ページの「高地での操作」を参照してください。
	クイック自動検索 詳細は、21 ページの「入力信号の切り替え」を参照してください。
	セキュリティ設定 詳細は、19 ページの「パスワード機能を使用する」を参照してください。
	パネル キー ロック 詳細は、30 ページの「コントロールキーをロックする」を参照してください。 ポーレート 適切な RS232 ケーブルを使ってプロジェクターをコンピュータに接続し、RS232 コマンドでプロジェクターを操作できるように、ポーレートはコンピュータと同じ値に設定してください。

機能	説明
7. 情報	ソース 現在の信号ソースを表示します。 カラーモード 画像メニューで選択したモードを表示します。 解像度 入力信号のネイティブ解像度を表示します。 カラー システム 入力システムフォーマットを表示します。 ファームウェアバージョン 現在のファームウェア バージョンを表示します 3X Fast Input 機能がアクティブかどうかを表示します。 S/N このプロジェクターのシリアル番号を表示します。

メンテナンス

プロジェクターのお手入れ

プロジェクターのパーツは絶対に取り外さないでください。プロジェクターのパーツの交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面に汚れやほこりが付いていたら、レンズのお手入れが必要です。

- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナーで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。



注意

研磨剤でレンズをこすらないでください。

プロジェクター ケースのお手入れ

ケースのお手入れを行う前に、33 ページの「プロジェクターをシャットダウンする」に記載されている正しい手順でプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ほこりや汚れを取り除くには、柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。



注意

ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。

プロジェクターの保管

長期間プロジェクターを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクターの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、51 ページの「仕様」を参照するか、販売店にお尋ねください。
- 調整脚をおさめます。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクターを元の梱包または同等の梱包にしまします。

プロジェクターの移動

プロジェクターを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。

ランプ情報

ランプ時間を見る

プロジェクターが作動している間、プロジェクターに内蔵されたタイマーがランプの使用時間（時間単位）を自動的に計算します。

ランプ時間を確認する：

1. OSD メニューを開き、**詳細 > ランプ設定**を選択してください。
2. **Enter** を押すと、**ランプ設定**ページが開きます。
3. **ランプ時間**情報はメニューに表示されます。
4. メニューを終了するには、**Exit** を押します。

ランプ寿命を延長する

投写ランプは消費アイテムです。ランプの寿命をできるだけ長く維持するには、OSD メニューで次の設定を行ってください。

ランプ モードを設定

プロジェクターを **Eco/Dynamic Eco/SuperEco** モードにすると、システムノイズ、電力消費量を低減し、ランプの寿命を延長できます。

ランプモード	説明
ノーマル	ランプを完全に明るくします。
Eco	ランプの電力消費量を 30% 節電し、輝度を下げてランプの寿命を延長し、さらにファンのノイズも低減します。
Dynamic Eco	コンテンツの輝度レベルによっては、電力消費量を最大 70% 節電できます。
SuperEco	ランプの電力消費量を 70% 節電し、輝度を下げてランプの寿命を延長し、さらにファンのノイズも低減します。

 SuperEco モードはランプ寿命の保護のため、30 分後に自動的にノーマルモードになります。その後、6 分間ノーマルモードで駆動します。6 分後、再び SuperEco モードに戻ります。長時間 SuperEco モードで使う時は、この繰り返しとなります。

ランプモードに設定するには、**詳細 > ランプ設定 > ランプモード**メニューで **◀/▶** を押します。または、リモコンで **Eco Mode** を押します。

自動パワーオフを設定

指定した時間を経過しても入力信号が検出されないときには、不要にランプの寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電源をオフにします。

1. OSD メニューを開き、**電源管理 > スマート エネルギー**を選択してください。
2. **Enter** を押すと、**スマート エネルギー**ページが開きます。
3. **自動パワーオフ**を選択し、**◀/▶** を押します。
4. プリセットの時間がこれから行うプレゼンテーションに合わない場合は、**無効**を選択してください。この場合、一定時間が経過してもプロジェクターは自動的にシャットダウンしません。

スリープタイマーを設定

指定した時間を経過したら、不要にランプの寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電源をオフにします。

1. OSD メニューを開き、**電源管理 > スマート エネルギー**を選択してください。
2. **Enter** を押すと、**スマート エネルギー**ページが開きます。
3. **スリープ タイマー** を選択し、**◀/▶** を押します。
4. プリセットの時間がこれから行うプレゼンテーションに合わない場合は、**無効**を選択してください。この場合、一定時間が経過してもプロジェクターは自動的にシャットダウンしません。

省電力を設定

5 分後に入力源が検出されない場合は、ランプの寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電力消費量を低減します。一定時間後にプロジェクターの電源を自動的にオフにすることもできます。

1. OSD メニューを開き、**電源管理 > スマート エネルギー**を選択してください。
2. **Enter** を押すと、**スマート エネルギー**ページが開きます。
3. **省電力**を選択し、**◀/▶** を押します。
4. **有効**を選択すると、5 分間信号が検出されなければプロジェクターのランプは Eco モードに変わります。
20 分間信号が検出されなければプロジェクターのランプは SuperEco モードに変わります。

ランプを交換する時期

ランプインジケータライト灯が点灯したときには、新しいランプを取り付けるか、販売店にお尋ねください。古いランプを使用すると、プロジェクターの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

⚠ 注意

ランプが過熱すると、ランプインジケータライトと温度インジケータライトが点灯します。この場合は、電源をオフにして 45 分間ほど放置し、プロジェクターを常温に戻してください。このようにしても電源をオンにしたときにランプインジケータライトまたは温度インジケータライトが点灯する場合は、販売店にご相談ください。

ランプの交換

⚠

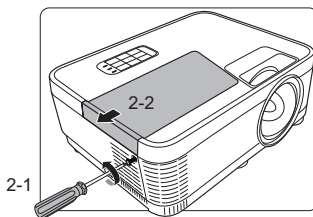
電源を切り、プロジェクターをコンセントから抜いてください。ランプの交換については、専門のサービス担当者にお問い合わせください。

ランプの交換について

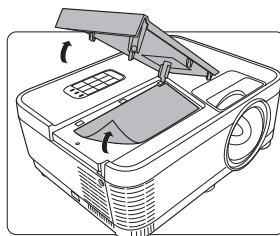
 電源を切り、プロジェクターをコンセントから抜いてください。

- 感電の危険を避けるため、必ずプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。
- 重度のやけどの危険性を避けるため、ランプの交換前に最低でも 45 分間はプロジェクターを冷却してください。
- 割れて鋭くなったランプのガラス片を取り除くときに、指をけがしたり内部部品を壊さないように十分ご注意ください。ランプを交換した後は手を洗ってください。
- このプロジェクターでは、指定されたランプのみを交換することができます。他のランプを使用すると、感電や発火の恐れがあります。
- ランプ交換時には手袋を着用してください。
- ランプを交換する最低でも 10 分前には電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

1. 電源を切り、プロジェクターをコンセントから外します。ランプが高温の場合はやけどしないようにお気をつけください。
2. プロジェクターのランプカバーを固定しているネジを緩めます。

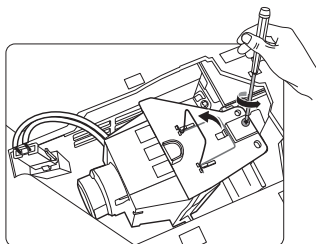


3. プロジェクターからランプカバーを外します。
4. ランプの上にあるフィルムをはがします。(再度フィルムを貼るため、粘着剤を塗布している箇所はできるだけほりがつかないようにしてください)



警告

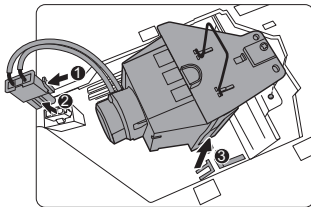
- ランプカバーを取り外した状態で電源を入れないでください。
 - ランプ、プロジェクターに指を入れないようにしてください。鋭くとがった内側の部品などでけがをする恐れがあります。
5. ランプコネクターを外します。
 6. ランプを固定しているネジを緩めます。
 7. ランプについているハンドルを持ち上げます。



8. ハンドルを用いてゆっくりプロジェクターからランプを引き出します。

警告

- 急激に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクター内に散乱します。
- 取り出したランプは水のかかる場所、子供の手の届く場所、可燃物の近くには置かないでください。
- ランプを取り出す際は、プロジェクターの中に手を入れないでください。プロジェクター内部の鋭利な箇所ではけがをする可能性があります。内部の光学部品に手を触れると、色が均等に表示されなくなったり、投映した画像が歪む場合があります。



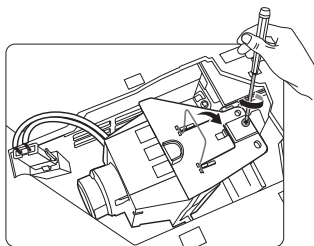
9. 右の図の通り、ランプの端の突起と穴の部分をプロジェクターに合わせて新しいランプを挿入してください。

警告

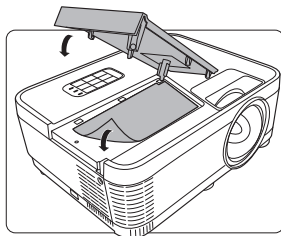
- ランプのレンズ部分を素手で触らないでください。皮脂はランプに付着すると光学面上にホットスポットが発生し、ランプの透過や反射などにダメージをもたらします。
10. ランプのコネクターを差し込み、しっかりとネジを締めます。

警告

- ネジを締めるのが緩いと、接続不良が発生する可能性があります。
- ネジをきつく締めすぎないでください。



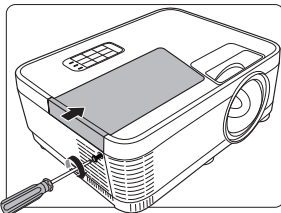
11. プロジェクターにランプカバーを元に戻します。



12. ランプカバーを固定するネジをしっかりと締めてください。

警告

- ネジを締めるのが緩いと、接続不良が発生する可能性があります。
- ネジはきつく締めすぎないようにしてください。



ランプタイマーのリセット方法

電源を入れ、リモコンの Menu ボタンを押し、オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューを開きます。詳細 > ランプ設定を選択し、ENTER を押します。するとランプ設定ページが表示されます。光源タイマーをリセットしてもよいかを確認するためのメッセージが表示されます。リセットを選択し、ENTER を押しすると光源時間がリセットされます。

警告

- ・ ランプを交換していない場合はリセットしないでください。ランプが破裂する恐れがあります。

インジケーター

ライト			状態と説明
			
電源の状況			
青	オフ	オフ	スタンバイ モード。
青に点滅	オフ	オフ	電源を入れています。
青	オフ	オフ	通常動作状態です。
ピンクに点滅	オフ	オフ	通常の電源オフ冷却プロセスです。
赤に点滅	赤に点滅	赤に点滅	ダウンロード中。
青	オフ	赤	蛍光体 / カラーホイールを開始できません。
青	オフ	赤に点滅	蛍光体 / カラーホイールがスピンしません。
赤	オフ	赤	スケーラー リセット失敗。
青	オフ	オフ	書き込みオン。
青	青	青	書き込みオフ。
ランプの状況			
オフ	オフ	赤	通常動作時に光源エラー発生。
オフ	オフ	ピンクに点滅	光源が点灯していません。
温度の状況			
赤	赤	オフ	ファン1エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
赤	赤に点滅	オフ	ファン2エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
赤	青	オフ	ファン3エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
青	赤	オフ	熱センサー1開エラー（リモートダイオードが開回路状態です）

トラブルシューティング

⑦ プロジェクターの電源がオンにならない。

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードが、プロジェクターの AC 入力と、コンセントに、正しく差し込まれていることを確認してください。また、コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認してください。
冷却プロセスの間にプロジェクターの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

⑧ 画像が映らない。

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクターが正しく入力信号デバイスに接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	プロジェクターまたはリモコンの Source キーで正しい入力信号を選択します。

⑨ イメージがぼやける。

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	フォーカスリングで焦点を合わせてください。
プロジェクターとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であればプロジェクターの高さを調整します。

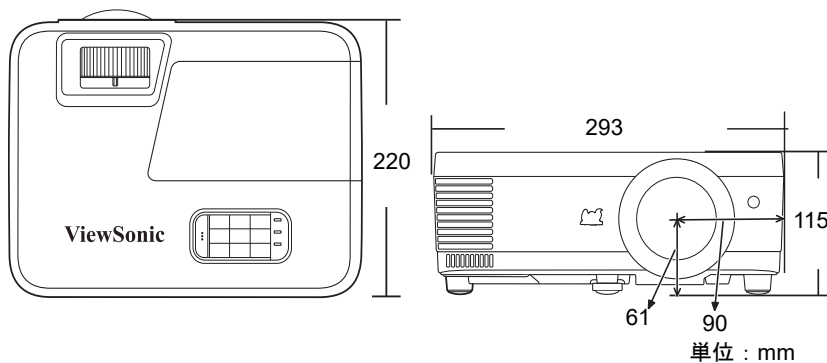
⑩ リモコンが機能しない。

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクターの間に障害物があります。	障害物を取り除いてください。
プロジェクターからの距離が遠すぎます。	プロジェクターから 8 メートル（26 フィート）以内の場所に立ちます。
プロジェクターのリモコンコードとリモコンのリモコンコードが一致しません。	リモコンコードを調整してください。

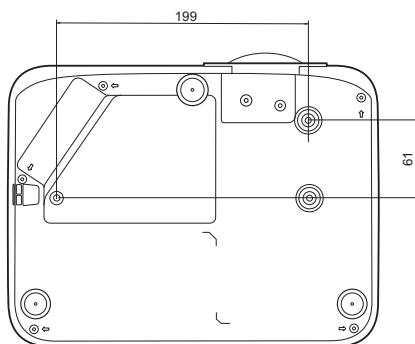
仕様

外形寸法

293 mm (W) x 115 mm (H) x 220 mm (D) (凸部を含まず)



天井取り付け



- ◎ 天井取り付けネジ :
M4 x 8 (最長 = 8 mm)

単位 : mm

IR 制御表

キー	フォーマット	Byte1	Byte2	Byte3	Byte4
Blank	NEC	X3	F4	07	F8
Auto Sync	NEC	X3	F4	08	F7
▲ 上	NEC	X3	F4	0B	F4
▼ 下	NEC	X3	F4	0C	F3
◀ 左	NEC	X3	F4	0E	F1
▶ 右	NEC	X3	F4	0F	F0
Enter	NEC	X3	F4	15	EA
Exit	NEC	X3	F4	28	D7
Eco Mode	NEC	X3	F4	2B	D4
Menu	NEC	X3	F4	30	CF
Source	NEC	X3	F4	40	BF
Pattern	NEC	X3	F4	55	AA
HDMI	NEC	X3	F4	58	A7
🔊+ (音量 +)	NEC	X3	F4	82	7D
🔊- (音量 -)	NEC	X3	F4	83	7C
COMP	NEC	X3	F4	41	be
🔌 On	NEC	X3	F4	4F	B0
🔌 Off	NEC	X3	F4	4E	B1
ℹ️ (情報)	NEC	X3	F4	97	68
🔇 (ミュート)	NEC	X3	F4	14	EB
Aspect	NEC	83	F4	13	EC
3D	NEC	X3	F4	20	DF
Brightness	NEC	X3	F4	60	9F
Contrast	NEC	X3	F4	61	9E
Color Temp	NEC	X3	F4	66	99
Sports	NEC	X3	F4	65	9A
Movie	NEC	X3	F4	64	9B
Gaming	NEC	X3	F4	63	9C
Standard	NEC	X3	F4	62	9D
Audio Mode	NEC	X3	F4	9E	61
USB-C	NEC	X3	F4	5C	A3

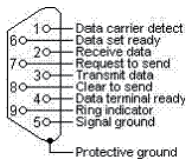
アドレスコード

コード 1	83F4
コード 2	93F4
コード 3	A3F4
コード 4	B3F4
コード 5	C3F4
コード 6	D3F4
コード 7	E3F4
コード 8	F3F4

RS232 コマンド表

< 両端のピン割り当て >

ピン	説明	ピン	説明
1	NC	2	RX
3	TX	4	NC
5	GND	6	NC
7	RTSZ	8	CTSZ
9	NC		



< インターフェイス >

RS-232 プロトコル	
ボーレート	115200 bps (デフォルト)
データ長	8 ビット
パリティ チェック	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	なし

<RS232 コマンド表>

機能	状態	操作	コマンド
電源	書き込み	オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x00 0x00 0x5D
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x01 0x00 0x5E
	読み取り	電源状態 (オン/オフ)	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x00 0x5E
全設定を リセット		実行	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x02 0x00 0x5F
色設定を リセット		実行	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x2A 0x00 0x87
起動画面	書き込み	青	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0A 0x01 0x68
		ViewSonic	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0A 0x02 0x69
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0A 0x04 0x6B
	読み取り	起動画面の 状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x0A 0x68
自動パワー オフ	書き込み	無効	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0B 0x00 0x68
		有効	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0B 0x01 0x69
	読み取り	自動パワー オフ状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x0B 0x69
高地対応 モード	書き込み	オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0C 0x00 0x69
		オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x0C 0x01 0x6A
	読み取り	高地対応モー ドの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x0C 0x6A
ランプ モード	書き込み	標準	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x10 0x00 0x6D
		Eco	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x10 0x01 0x6E
		Dynamic Eco	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x10 0x02 0x6F
		スーパーエコ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x10 0x03 0x70
	読み取り	ランプモード の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x10 0x6E
メッセージ	書き込み	メッセージ オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x27 0x00 0x84
		メッセージ オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x27 0x01 0x85
	読み取り	メッセージの 状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x27 0x85

プロジェクターの配置	書き込み	前面投写	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x00 0x5E
		リア投写	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x01 0x5F
		天井リア投写	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x02 0x60
		天井前面投射	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x00 0x03 0x61
	読み取り	プロジェクター位置の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x00 0x5F
3D 同期	書き込み	オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x20 0x00 0x7E
		自動	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x20 0x01 0x7F
		フレームシーケンシャル	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x20 0x02 0x80
		フレームパッキング	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x20 0x03 0x81
		上 - 下	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x20 0x04 0x82
		横に並べる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x20 0x05 0x83
	読み取り	3D 同期の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x20 0x7F
3D 逆同期	書き込み	オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x21 0x00 0x7F
		オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x21 0x01 0x80
	読み取り	3D 逆同期の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x21 0x80
コントラスト	書き込み	下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x02 0x00 0x60
		上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x02 0x01 0x61
	読み取り	コントラスト比	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x02 0x61
輝度	書き込み	下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x03 0x00 0x61
		上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x03 0x01 0x62
	読み取り	輝度	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x03 0x62

縦横比	書き込み	自動	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x00 0x62
		4:3	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x02 0x64
		16:9	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x03 0x65
		16:10	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x04 0x66
		2.35:1	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x07 0x69
		ネイティブ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x04 0x09 0x6B
	読み取り	縦横比	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x04 0x63
自動調整	実行		0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x05 0x00 0x63
水平位置	書き込み	右	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x06 0x01 0x65
		左	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x06 0x00 0x64
	読み取り	水平位置	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x06 0x65
垂直位置	書き込み	上	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x07 0x00 0x65
		下	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x07 0x01 0x66
	読み取り	垂直位置読み取り	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x07 0x66
色温度	書き込み	色温度（暖色）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x08 0x00 0x66
		色温度（標準）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x08 0x01 0x67
		色温度（寒色）	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x08 0x03 0x69
	読み取り	色温度の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x08 0x67
空白	書き込み	オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x09 0x01 0x68
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x09 0x00 0x67
	読み取り	空白の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x09 0x68
垂直歪み補正	書き込み	下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0A 0x00 0x68
		上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0A 0x01 0x69
	読み取り	台形補正の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x0A 0x69

カラー モード	書き 込み	輝度	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x00 0x69
		スポーツ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x11 0x7A
		標準	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x04 0x6D
		ゲーム	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x12 0x7B
		ムービー	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0B 0x08 0x71
	読み 取り	プリセット モードの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x0B 0x6A
原色	書き 込み	原色 R	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x10 0x00 0x6E
		原色 G	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x10 0x01 0x6F
		原色 B	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x10 0x02 0x70
		原色 C	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x10 0x03 0x71
		原色 M	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x10 0x04 0x72
		原色 Y	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x10 0x05 0x73
	読み 取り	原色の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x10 0x6F
色相	書き 込み	下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x11 0x00 0x6F
		上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x11 0x01 0x70
	読み 取り	色相	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x11 0x70
彩度	書き 込み	下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x12 0x00 0x70
		上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x12 0x01 0x71
	読み 取り	彩度	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x12 0x71
ゲイン	書き 込み	下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x13 0x00 0x71
		上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x13 0x01 0x72
	読み 取り	ゲイン	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x13 0x72
フリーズ	書き 込み	オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x00 0x01 0x60
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x00 0x00 0x5F
	読み 取り	フリーズの 状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x13 0x00 0x60

ソース入力	書き込み	VGA	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x00 0x60
		HDMI 1	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x03 0x63
		HDMI 2	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x07 0x67
		USB-C	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x0f 0x6f
		コンポジット	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x01 0x05 0x65
	読み取り	ソース	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x13 0x01 0x61
クイック自動検索	書き込み	オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x02 0x01 0x62
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x02 0x00 0x61
	読み取り	クイック自動検索の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x13 0x02 0x62
ミュート	書き込み	オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x00 0x01 0x61
		オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x00 0x00 0x60
	読み取り	ミュートの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x14 0x00 0x61
音量	書き込み	上げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x01 0x00 0x61
		下げる	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x14 0x02 0x00 0x62
		音量設定	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x13 0x2A 0x11 0x9A
	読み取り	音量	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x14 0x03 0x64

言語	書き込み	ENGLISH	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x00 0x61
		FRANÇAIS	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x01 0x62
		DEUTSCH	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x02 0x63
		ITALIANO	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x03 0x64
		ESPAÑOL	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x04 0x65
		РУССКИЙ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x05 0x66
		繁體中文	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x06 0x67
		简体中文	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x07 0x68
		日本語	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x08 0x69
		한국어	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x09 0x6A
		Svenska	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x0a 0x6B
		Nederlands	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x0b 0x6C
		Türkçe	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x0c 0x6D
		Čeština	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x0d 0x6E
		Português	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x0e 0x6F
		ไทย	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x0f 0x70
		Polski	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x10 0x71
		Suomi	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x11 0x72
		العربية	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x12 0x73
		Indonesian	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x13 0x74
		हिन्दी	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x14 0x75
		Tiếng Việt	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x00 0x15 0x76
ランプ時間	読み取り	言語	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x15 0x00 0x62
	書き込み	ランプ使用時間をリセット	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x15 0x01 0x00 0x62
	読み取り	ランプ使用時間	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x15 0x01 0x63

HDMI フォーマット	書き込み	RGB	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x28 0x00 0x85
		YUV	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x28 0x01 0x86
		自動	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x28 0x02 0x87
	読み取り	HDMI フォーマットの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x28 0x86
HDMI 範囲	書き込み	エンハンス済み	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x29 0x00 0x86
		標準	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x29 0x01 0x87
		自動	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x29 0x02 0x88
	読み取り	HDMI 範囲の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x29 0x87
CEC	書き込み	オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x2B 0x00 0x88
		オン	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x2B 0x01 0x89
	読み取り	CEC の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x2B 0x89
エラーの状態	読み取り	読み取りエラーの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x0C 0x0D 0x66
Brilliant Color	書き込み	オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x00 0x6D
		Brilliant Color 1	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x01 0x6E
		Brilliant Color 2	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x02 0x6F
		Brilliant Color 3	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x03 0x70
		Brilliant Color 4	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x04 0x71
		Brilliant Color 5	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x05 0x72
		Brilliant Color 6	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x06 0x73
		Brilliant Color 7	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x07 0x74
		Brilliant Color 8	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x08 0x75
		Brilliant Color 9	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x09 0x76
		Brilliant Color 10	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x12 0x0F 0x0A 0x77
	読み取り	Brilliant Color の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x12 0x0F 0x6E

スクリーンの色	書き込み	スクリーンの色オフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x00 0x8F
		ブラックボード	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x01 0x90
		グリーンボード	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x02 0x91
		ホワイトボード	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x32 0x03 0x92
	読み取り	スクリーンの色の状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x32 0x90
オーバースキャン	書き込み	オーバースキャンオフ	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x33 0x00 0x90
		オーバースキャン1	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x33 0x01 0x91
		オーバースキャン2	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x33 0x02 0x92
		オーバースキャン3	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x33 0x03 0x93
		オーバースキャン4	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x33 0x04 0x94
		オーバースキャン5	0x06 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x11 0x33 0x05 0x95
	読み取り	オーバースキャンの状態	0x07 0x14 0x00 0x05 0x00 0x34 0x00 0x00 0x11 0x33 0x91
リモートキー	書き込み	メニュー	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0F 0x61
		終了	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x13 0x65
		上	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0B 0x5D
		下	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0C 0x5E
		左	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0D 0x5F
		右	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x0E 0x60
		ソース	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x04 0x56
		入力	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x15 0x67
		自動	0x02 0x14 0x00 0x04 0x00 0x34 0x02 0x04 0x08 0x5A

タイミングチャート

アナログ RGB			
信号	解像度 (ドット)	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
VGA	640 x 480	4:3	60/72/75/85
SVGA	800 x 600	4:3	60/72/75/85
XGA	1024 x 768	4:3	60/70/75/85
	1152 x 864	4:3	75
WXGA	1280 x 768	15:9	60
	1280 x 800	16:10	60/75/85
	1360 x 768	16:9	60
Quad-VGA	1280 x 960	4:3	60/85
SXGA	1280 x 1024	5:4	60
SXGA+	1400 x 1050	4:3	60
WXGA+	1440 x 900	16:10	60
UXGA	1600 x 1200	4:3	60
HD	1280 x 720	16:9	60
MAC 13"	640 x 480	4:3	67
MAC 16"	832 x 624	4:3	75
MAC 19"	1024 x 768	4:3	75
MAC 21"	1152 x 870	4:3	75

HDMI			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
VGA	640 x 480	4:3	60
SVGA	800 x 600	4:3	60
XGA	1024 x 768	4:3	60
WXGA	1280 x 768	15:9	60
	1280 x 800	16:10	60
	1360 x 768	16:9	60
Quad-VGA	1280 x 960	4:3	60
SXGA	1280 x 1024	5:4	60
SXGA+	1400 x 1050	4:3	60
WXGA+	1440 x 900	16:10	60
HDTV (1080p)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (1080i)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (720p)	1280 x 720	16:9	50 / 60
SDTV (480p)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576p)	720 x 576	4:3 / 16:9	50
SDTV (480i)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576i)	720 x 576	4:3 / 16:9	50

3D（HDMI 信号を含む）			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
SVGA	800 x 600	4:3	60* / 120**
XGA	1024 x 768	4:3	60* / 120**
HD	1280 x 720	16:9	50* / 60* / 120**
WXGA	1280 x 800	16:9	60* / 120**
ビデオ信号用			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
SDTV (480i)***	720 x 480	4:3 / 16:9	60
 * 60 Hz 信号は、横に並べる、上 - 下、フレームシーケンシャル フォーマットでサポートされています。 ** 120 Hz 信号は、フレームシーケンシャルフォーマットでのみサポートされています。 *** ビデオ信号 (SDTV 480i) は、フレームシーケンシャル フォーマットでのみサポートされています。			

HDMI 3D			
フレームシーケンシャル形式			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
1080p	1920 x 1080	16:9	23.98/24
720p	1280 x 720	16:9	50/59.94/60
横に並べる形式			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
1080i	1920 x 1080	16:9	50/59.94/60
上 - 下形式			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
1080p	1920 x 1080	16:9	23.98/24
720p	1280 x 720	16:9	50/59.94/60

コンポーネントビデオ			
信号	解像度（ドット）	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
HDTV (1080p)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (1080i)	1920 x 1080	16:9	50 / 60
HDTV (720p)	1280 x 720	16:9	50 / 60
SDTV (480p)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576p)	720 x 576	4:3 / 16:9	50
SDTV (480i)	720 x 480	4:3 / 16:9	60
SDTV (576i)	720 x 576	4:3 / 16:9	50

コンボジットビデオ		
信号	縦横比	リフレッシュレート (Hz)
NTSC	4:3	60
PAL	4:3	50
PAL60	4:3	60
SECAM	4:3	50

プロジェクターの仕様

 仕様はすべて予告なく変更されることがあります。

 お住まい地域によっては、販売されていないモデルもあります。

仕様	
解像度	0.65" 1080p (1920 x 1080)
投写率	0.69~0.83
ディスプレイ システム	1-CHIP DMD
ランプのタイプ	240 W (RLC-118)
入力コネクタ	
RGB 入力	1
コンポーネント入力	RGB 入力と共有
コンポジット入力	1
オーディオ入力	1
Mini USB	1 (ファームウェア アップグレード)
HDMI (1.4a)	2
USB-C	1
出力コネクタ	
オーディオ出力	1
スピーカー	5 W
制御端末	
RS-232 シリアル コントロール	9 ピン x 1
IR 受信機	1 (正面)
機械的仕様	
純量	2.7 Kg (5.95 lbs)
電気	
電源	AC 100–240V、50–60 Hz
消費電力	STD : 310 W (最大)、< 0.5 W (スタンバイ)
環境要件	
動作温度範囲	0°C–40°C (海拔 0 m) 0–1499 m (5°C–35°C)
操作高度	5°C–25°C で 1500–3000 m (高地対応モードオン)
動作相対湿度	10%–90% (結露なきこと)



HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

著作権情報

著作権

Copyright © 2018. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、ViewSonic Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁氣的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

おことわり

ViewSonic コーポレーションは、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。さらに、ViewSonic コーポレーションは本書を改定する権利と、このような改定や変更についていかなる人物に対しても通知する義務を負うことなく内容を変更できる権利を有しています。

*DLP、Digital Micromirror Device (DMD) は、Texas Instruments の商標です。その他の著作権は各社または各組織に帰属します。

カスタマーサポート

技術サポートまたは製品サービスについてはウェブサイトをご覧ください。

